



# 小学校 保健学習の 指導と評価

— 目標に準拠した評価がわかる具体的な展開例 —





## まえがき

近年における都市化、情報化など社会環境や生活様式の変化、少子化などが子どもの身体的活動・遊びの減少、食生活の変化、精神的負担の増大、人間関係の希薄化などをもたらし、さらには家庭や地域の教育力の低下をもたらすなど子どもの心身の健全な発育・発達に様々な影響を与えています。各学校においては、このような複雑、多様化している子どもの心身の健康課題に対応するとともに、生涯にわたって健康で安全な生活を送るための基礎を培うことが一層重要となっています。

とりわけ、学校における健康教育の中核であり、全ての子どもが学ぶべき基礎・基本としての保健学習では、的確な思考・判断に基づいた適切な意志決定と行動選択など健康の保持増進のための実践力の育成を重視した授業（指導と評価）の展開が求められています。

平成14年度より小・中学校で全面実施、15年度より高等学校で学年進行で実施されている新学習指導要領では、児童生徒が健康の大切さを認識し、自らの健康を管理し、改善していくような資質や能力の基礎を培い、生涯を通じて心身の健康を保持増進するための実践力を育成することを目標に、新たに小学校第3・4学年から保健領域が設定されるなど、保健学習の内容充実が図られています。併せて、新指導要録に基づく目標に準拠した評価・評定、それを可能にする観点別学習状況の評価など、子どもに生きる力をはぐくみ、学習や指導に役立つ信頼できる評価の工夫も求められています。

本会の「保健学習推進委員会：委員長宇都宮大学教授和唐正勝」では、このような状況を踏まえ、各学校における保健学習の指導と評価の充実に資するため、小学校、中学校及び高等学校の授業（指導と評価）について、授業研究等を実践しながら、研究を進めてきました。

本書は、その成果を「小学校保健学習の指導と評価」としてまとめ、発刊したものです。平成12年度に発刊した「小学校保健学習のプラン」と併せて、各学校における保健学習充実のため、ご活用いただければ幸いです。

末尾となりましたが、本書の作成に当たってご尽力いただきました推進委員の先生方、授業研究等にご協力いただいた各学校、ご指導いただきました教育委員会など関係の皆様方に心から感謝申し上げます。

平成16年2月26日

財団法人日本学校保健会  
会長 矢野 亨

# 目次

<b>I 保健学習の評価について理解を深めよう</b> .....	1
1. 小学校保健学習の指導と評価のイメージ .....	2
2. 評価は子どもの成績をつけるためだけにあらず .....	4
3. 新しい指導要録の基本的な考え方 .....	5
4. 評価規準作成の手順 .....	6
5. 学習指導の工夫をしてこそ評価ができる .....	8
6. 多様な評価方法の工夫 .....	9
7. 保健領域と運動領域のバランスを考えた体育科の評定への総括の工夫 .....	13

<b>II 今こそ聞きたいQ&amp;A</b> .....	15
--------------------------------	----

- Q 1. 「指導要録」って何？
- Q 2. 「新しい学力観」とはどういうこと？
- Q 3. どうして「基準」でなく、「規準」と書くの？
- Q 4. 「評定」は「評価」とどう違うの？
- Q 5. 保健領域の「観点別学習状況の評価」はどうするの？
- Q 6. なぜ多様な評価の工夫が必要なの？
- Q 7. 授業中に多様な評価をどうやるの？
- Q 8. 保健領域を評価しても、評定に生かせるの？
- Q 9. ペーパーテストでは「知識・理解」をみるの？
- Q 10. 「単元の評価規準」と「学習活動における具体的評価規準」の違いは？
- Q 11. 「十分満足できる」、「おおむね満足できる」、「努力を要する」の学習の姿はどう違うの？
- Q 12. TTの授業では、評価はどうするの？
- Q 13. 個人内評価はどうするの？



<b>III こんな指導と評価の工夫はありますか</b> .....	25
------------------------------------	----

1. 単元名「育ちゆく体とわたし」 .....	27
-------------------------	----

- (1) 単元の目標
- (2) 単元計画
- (3) 事例の特徴
- (4) 単元の評価規準
- (5) 指導と評価の計画
- (6) 展開例

体の発育・発達について、体験や実物を通して実践的に理解できるように工夫しました。

クイズで興味・関心を高めるなどの展開を工夫しています。評価は座席表やワークシートを活用しています。

- (7) 実践を終えて
  - ① 授業者のコメント
  - ② 観察者のコメント
- (8) 単元の観点別学習状況の評価と評定への総括



## 2. 単元名「けがの防止」.....45

- (1) 単元の目標
- (2) 単元計画
- (3) 事例の特徴
- (4) 単元の評価規準
- (5) 指導と評価の計画
- (6) 展開例
- (7) 実践を終えて
  - ① 授業者のコメント
  - ② 観察者のコメント
- (8) 単元の観点別学習状況の評価と評定への総括

けがの防止について、課題解決的な学習やTTによる実習を取り入れました。

TTによる実習によって、学習活動を工夫しています。評価はTTのチームとしての長所を生かしたものとなっています。



## 3. 単元名「病気の予防」.....67

- (1) 単元の目標
- (2) 単元計画
- (3) 事例の特徴
- (4) 単元の評価規準
- (5) 指導と評価の計画
- (6) 展開例
- (7) 実践を終えて
  - ① 授業者のコメント
  - ② 観察者のコメント
- (8) 単元の観点別学習状況の評価と評定への総括

前半は、病気の予防について課題解決的な学習、後半は喫煙・飲酒・薬物乱用防止について一斉学習やブレインストーミング等の指導方法を工夫しました。

子どもの考えを引き出すためにブレインストーミングを行ったり、視聴覚教材を活用したりして工夫しています。評価は子どもの様子の観察や振り返りカードを併用しています。





# I

保健学習の評価について理解を深めよう

# 目標に準拠した評価

保健学習における  
観点別学習状況の  
評価の観点

- 「関心・意欲・態度」
- 「思考・判断」
- 「知識・理解」

評価規準の  
設定

子どもの学習の  
実現状況の把握

観点を絞った  
評価記録の蓄積

指導と評価の  
一体化

多様な評価方法の工夫  
（ペーパーテスト、観察、面接、  
ワークシート、ポートフォリオ  
等）

健康・安全について、  
課題解決を  
目指して考え、  
判断できる子ども

健康・安全について、  
課題解決に役立つ  
基礎的な事項を理解し、  
知識を身に付けている  
子ども

## 保健学習の目標

自他の生命を尊重するとともに、  
健康的な生活行動や習慣を身に付け、  
生涯にわたって健康な生活を送る  
資質や能力（実践力）の基礎を培う。

毎日の生活と健康

3・4年  
(8時間程度)

育ちゆく体とわたし

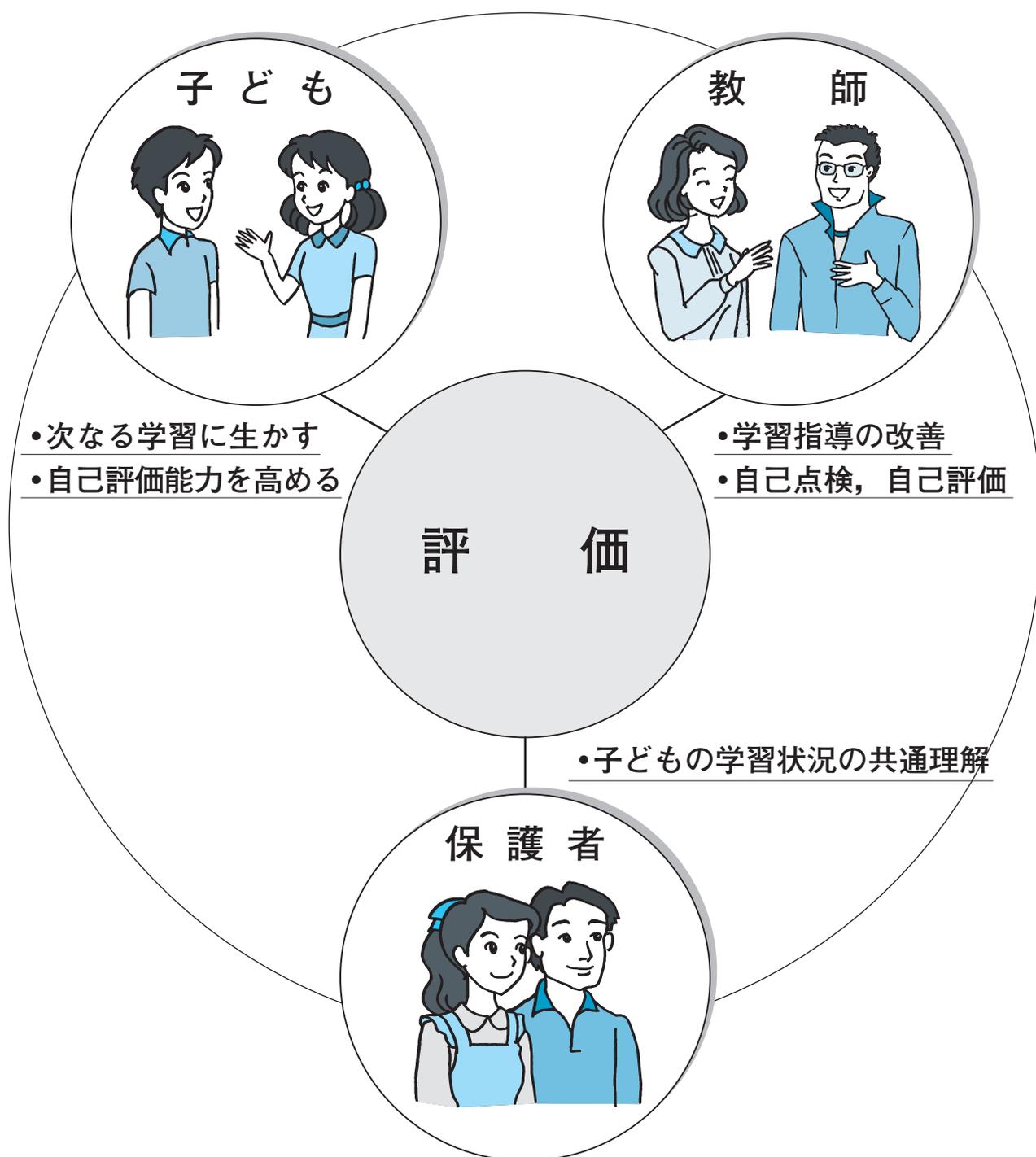
# 指導と評価のイメージ



デザイン：上原千恵（筑波大学野津ゼミ）

## 2. 評価は子どもの成績をつけるためだけにあらず

学校における学習の評価は、言うまでもなく、単に成績の善し悪しをつけたり、子どもの順位を示したりすることではありません。本来のねらいとしては、学習指導要領で示された教科の目標や内容についての学習の実現状況を、一人一人の子どもについての的確にとらえるために行うものです。そして、学習者である子どもの次なる学習に生かすためや自己評価能力を高めるのに役立てることを意図しています。また、教師自らの学習指導の自己点検や自己評価として、その改善に役立てたり、保護者に対して子どもの学習状況についての共通理解を図るために役立てたりすることが求められています。



### 3. 新しい指導要録の基本的な考え方

新しい指導要録では、目標に準拠した評価（いわゆる絶対評価）が全面導入されました。これまでの集団に準拠した評価（いわゆる相対評価）よりも、目標に準拠した評価が本来の評価の機能を果たす上で適当であると考えられたからです。

この指導要録の改善は、教育課程審議会の答申（平成12年12月）を踏まえて行われました。それには、目標に準拠した評価への転換の理由について、次のように示されています。

- ① 児童生徒の一人一人の進歩の状況や教科の目標の実現状況を的確に把握し、学習指導の改善に生かすことが一層重要であり、そのためには目標に準拠した評価が適当であること。
- ② 児童生徒の学習の習熟の程度に応じた指導など個に応じた指導を一層重視しており、学習集団の編成も多様となることが考えられるため、指導に生きる評価を行っていくためには、目標に準拠した評価を常に行うことが重要となること。
- ③ 少子化等により、かなり広範囲の学校で、学年、学級の児童生徒が減少してきており、評価の客観性や信頼性を確保する上でも、集団に準拠した評価によるよりも、目標に準拠した評価の客観性を高める努力をし、それへの転換を図ることが必要となっていること。

などが挙げられています。

いずれにしても、評価を行うことは容易ではありません。目標に準拠した評価も例外ではありませんが、その必要性や意義はきわめて大きいといえます。



## 4. 評価規準作成の手順

評価規準は、子どもの学習状況をより客観的に評価するための質的なものさしとなるものです。したがって、学習指導要領の趣旨や目標に準拠した評価の考え方を十分理解した上で、作成することが前提になります。具体的な作成の手順の例を示しますので、これを参考によりよい規準を作成してみてください。

### ① 単元の指導目標を設定する。

目標に準拠した評価は、目標に照らして子どもの学習の実現状況を見るものであるため、最初に指導目標を明確にすることが必要です。学習指導要領に示された目標や内容等を踏まえて、単元全体を見通した目標を設定します。

その際、学習指導要領及びその解説書の評価の観点の趣旨、国立教育政策研究所教育課程研究センター（以下、教育課程研究センターとする）から示された評価規準の参考例、学校・学年目標、子どもの実態、地域の実情等を考慮しながら、子どもにどのような資質や能力を身に付けさせたいのかをとらえることが重要です。

### ② 単元計画を立てる。

単元の特徴と指導目標を踏まえ、単元を何時間で扱うか、毎時間の主な指導内容はどうか等を考慮して、単元計画を立てます。単元計画は、指導と評価の計画を立てる際に目安となります。しかし、指導と評価の計画を作成する段階でも検討を加え、よりよいものに上げていきます。

### ③ 単元の評価規準を作成する。

保健領域の評価の観点は、「健康・安全への関心・意欲・態度」、「健康・安全についての思考・判断」、「健康・安全についての知識・理解」の3つです。教育課程研究センターでは、内容のまとまりごとの評価規準及び具体例を示しています。

他の教科や体育科の運動領域では、内容のまとまりごとの評価規準を参考に、単元の評価規準を作成する必要があります。保健領域では内容のまとまりごとに3観点の評価規準が示されていますので、そのまま単元のものとして利用することができます。

#### ④ 学習活動における具体の評価規準を作成する。

この評価規準は、実際に授業での評価に用いるものであり、子どもの学習の実現状況を「おおむね満足できる」状況と判断するものです。ここでは、子どもの質的な学習の姿をより客観的に評価するために、観点別に、子どもの学習活動をできる限り具体的にイメージし、学習の姿を表現する工夫が必要です。

具体的に第4学年の健康・安全への関心・意欲・態度の例で説明します。

##### 【「育ちゆく体とわたし」についての教育課程研究センターの評価規準の具体例】

体の発育・発達について、今までの自分の成長を見つめながら、課題を見つけようとしている。

上記の評価規準の具体例では、「体の発育・発達について」の部分は「学習内容」,「今までの自分の成長を見つめながら」の部分は「子どもの学習状況をとらえる例示」,「見つけようとしている」の部分は「その観点で子どもの特徴的な姿を現す動詞」というようにとらえると整理しやすくなります。このことは、健康・安全への関心・意欲・態度の観点だけでなく、健康・安全についての思考・判断の観点でも共通です。健康・安全についての知識・理解では「学習内容」をより具体的にし、「子どもの学習状況をとらえる例示」を除いたものとなっています。これを参考に子どもの実態に合わせてよりよい評価規準を作成します。

また、評価規準全体のイメージを明らかにするために、「おおむね満足できる」状況の規準だけでなく、「十分満足できる」状況,「努力を要する」状況についても十分見通して、具体的な学習の姿を記述しておきます。次に示す例は、「自分で資料を集めたり,(自分だけでなく)今までの成長を振り返ったり」と子どもが実現している学習状況に質的な高まりや広がりがあったものを「十分満足できる」状況としたものです。

##### 【「十分満足できる」状況の学習の姿の例】

体の発育・発達について、自分で資料を集めたり、今までの成長を振り返ったりして課題を見つけようとしている。

#### ⑤ 指導と評価の計画を立てる。

学習活動における具体の評価規準を踏まえて、どのような方法で評価を進めていくかを具体化するために、単元の指導と評価の計画を立てます。その際、指導と評価が一体化する計画となるようにする必要があります。指導したことを評価しているか、その評価は次の指導に生かされて再度評価するようになっているか確認しながら作業を進めます。ここでは、取り上げる題材、授業の進め方、学習形態などによって、観点ごとにどの具体の評価規準を指導と評価の計画のどこに位置づけるかを選択したり、重点化したりするなどの工夫が必要となります。

ある程度計画ができあがったら、次のことに留意して見直しましょう。

- 全体を見て、1授業時間の評価の観点が多すぎない現実的な計画になっているか。
- 単元全体を通して観点別にバランスよく評価しているか。
- こうした学習過程の評価とともに、まとめの評価として、ペーパーテストなどを活用するかどうか。

## 5. 学習指導の工夫をしてこそ評価ができる

目標に準拠した評価は、評価規準の作成や評価のための記録に注目するばかりでは実現できません。何よりも、子どもたちに対する実際の学習指導がこうした評価の考え方にふさわしいものになり得ていることが必要です。つまり、目標に準拠した評価では、指導と評価の一体化を図り、指導に生かす評価を充実させるというだけでなく、指導する教師の授業観そのものの変革を迫っているといえます。

極端な例ですが、医学的な知識を単に伝達し記憶させるだけの保健授業や、健康行動の実践を一方的に押しつけるような保健授業に陥っているようであれば、「関心・意欲・態度」、「思考・判断」、「知識・理解」の3観点からの評価などは成り立たないことは容易に理解できることです。

学習指導の工夫の基本として、次の3つのポイントを挙げることができます。

### (1) 肯定的に展開すること

子どもたちが自分を否定されない安心感を持ち、また生き生きと自分を発揮して、みんなで探求していけるような学びの空間・共同体づくりが、学習の基盤として求められます。そのためには、学習指導が常に肯定的に展開される必要があります。このことは、教師にとって暗黙の前提となっていますが、ここで改めて確認しておきましょう。

### (2) 多様な方法を工夫すること

保健学習の指導において、魔法のような方法は存在しません。実験、実習、フィールドワーク、ディスカッション（討議）、ディベート、ブレインストーミング、ロールプレイング（役割演技法）、ケーススタディ（事例を用いた学習）、課題解決的な学習など、それぞれの方法の特長を踏まえて、指導内容に適した方法を選択したり上手く組み合わせたりして、効果的に用いる工夫が必要です。そして、子どもたちの主体的な学習を促すようにしましょう。

### (3) 実践的な理解を図ること

授業で実践的な理解が十分図られるならば、子どもたちは何となくわかっていたことが確かにわかったと納得することでしょう。また、わかったつもりでいたことが実はわかっていないことに気づくことも多いでしょう。目標に準拠した評価では、こうした学びのプロセスを見逃すことなく、適切に評価することを求めています。実践的な理解を図るために、限られた時間の中で、できる限りの工夫が必要です。



## 6. 多様な評価方法の工夫

評価を考える場合、「だれが」、「だれを」、「いつ」、「どのように」するかを明確にしておかなければなりません。評価方法は「どのように」するかという問題であり、授業者（教師）が学習者（児童）を評価する際には、その方法はペーパーテスト、観察・面接、ワークシート・ノート、自己評価カード・ポートフォリオ等による方法があります。

これらの方法は授業前、中、後の何れの時期においても用いることができますが、その特徴から用いるのに有効な時期が考えられます（表）。

表 評価方法と実施時期

評価方法	授業前	授業中	授業後
ペーパーテスト	◎	○	◎
観察・面接	△	◎	○
ワークシート・ノート	△	○	◎
自己評価カード・ポートフォリオ	△	△	◎

◎：有効，○：使用可能，△：工夫すれば使用可能

例えば、ペーパーテストは、授業前に用いる場合には、児童の既有的知識やその領域における学習能力、モチベーションなどを把握できますし、事後においては学習した成果をみることができます。事前と事後を比較すれば、評価はより客観的なものになります。この場合、事前の評価は診断的評価、事後は形成的あるいは総括的評価といえます。授業中に小テストを実施すれば、診断的あるいは形成的評価になります。評価の目的によって、「何を」、「いつ」行うかが決まれば、自ずと適切な方法を選択できます。つまり、どのような方法を用いるかは評価の目的に規定されますので、目的に即した評価方法およびその多様な組み合わせによって設定されます。したがって、評価方法の特徴をよく理解しておくことが求められます。

### (1) ペーパーテスト

ペーパーテストは教師が意図した学習内容、方法、活動を具体的に表現できる最も一般的な方法です。教えようとした内容を児童が正しく理解しているか、どのように考えているか、関心の程度や態度などを設問文で問うことによって把握することができますので、「知識・理解」および「思考・判断」の観点の評価に用いることができます。ただし、いずれの観点の評価を行うかによって形式は異なります。

ペーパーテストの形式は、記述式と選択式（真偽形式、多肢選択形式など）に分けられます。記述式は「～説明してください。」、「～自分の意見を書いてください。」などの設問によって児童に文章にして書かせるものです。選択式は客観的に採点することができますので、客観式ともいわれています。

前者は、考え、まとめ、表現する力（思考・判断）を知るには有効です。しかし、解答のための十分な時間を確保する必要があること、教師によって問題文の作成や解答を読み取る力に大きく差があるので客観性が低くなることなどの短所があります。一方、後者は、学習目標の細目が明確で、

特定の事実に関する「知識・理解」の到達度を知りたいときに有効です。後者は、前者のもつ短所を補う意味で開発されていますから、短時間で解答できること、客観性が高いなどの長所がありますが、「思考・判断」のような能力をみることができないという短所をもっています。つまり、両者の長所と短所は表裏の関係にあるといえます。何を把握したいかという評価の目的に即して、それぞれの形式の特徴を生かした使い分けが必要になります。

## (2) 観察・面接

観察による方法とは、児童の行動やその環境をみて、記録して評価する方法です。授業では最も日常的に行われている方法といえます。しかし、一度に児童全員の観察記録を取ることは不可能ですし、観察の仕方などの違いから教師の主観に影響されやすい短所がありますので、観察すべき項目をチェックリストにしておくことや評定尺度を決めておくなど、予め何を評価するのかを想定しておくことが求められます。例えば、学習のねらいに即して、観点別評価を定めておき、「努力を要する」あるいは「十分満足できる」と評価できる児童のみに注目して観察して記録することです。観察の要点と評価規準を明確にしておけば、学習のねらいに即した評価データを得やすいでしょう。

面接による方法は、教師と児童とが直接に顔を向かい合わせて、主に話し合いによって相互交流する方法です。どのような観点で評価するかの手順を予め決めておくか、あるいは児童の自発的な発言にしたがって行うかに大別できますが、何れも評価すべき観点やその評価規準をチェックリストにしておくことによって、学習のねらいに即した評価データを得やすいでしょう。

## (3) ワークシート、ノート

ワークシートの形式は多種多様ですが、その特徴は大きく2つに分けられます。一つは、子どもに自ら学習効果を確認させるとともに、その達成度を診断させようとすることです。もう一つは、補充資料や課題などを提示し、学習活動を促進させようとすることです。つまり、ワークシートは、学習状況の確認と促進という2つの機能をもっているといえます。

前者は、子どもに学習状況を自己評価させるものですから、当然、ペーパーテストのような「知識・理解」をみるようなものから、自己評価を通して、何がわかり、考え、したいか、などを書かせるようなものまでいろいろな形式があります。したがって、工夫をすれば、「知識・理解」だけでなく、「思考・判断」や「関心・意欲・態度」もみることができます。一方、後者は、自分の考えやそう考えた理由を書かせたり作業させたりしますから、そのことを踏まえて、発表、討論させるなどの学習展開と関連づけて用いれば、その課題に向き合った状況を捉えることができ、「思考・判断」および「関心・意欲・態度」を時系列に捉えることが可能になります。もちろん、「知識・理解」における診断的評価や形成的評価もできます。その場合、真偽のような解答を求めるだけでなく、選択した理由も書かせるなどの工夫をすれば、他の観点での評価もできるでしょう。

ワークシートには、上記の何れかの機能を重視して作られたものと両者の機能もつものなど、様々な内容と機能をもつものがありますが、どのようなねらいをもつ学習をするのかによって、内容と機能は決められます。同様に、いろいろな観点からの評価が可能であればあるほど、予め評価の観点と規準とを明確にしておくことが必要とされます。当然、評価の観点は、どのようなねらいをもつ学習なのかに規定されます。指導と評価を一体的に進めるという所以です。

ノートについても全く同じことがいえます。ノートの機能として、練習帳的機能、備忘録的機能、

整理保存的機能（調べたこと、考えたこと、わかったこと、感じたことなどを整理しておく）、探求的機能（問題を解決するために調べたり考えたりしたことを書き留めておく）、カタルシス的機能（疑問や感じたことを吐き出す）などがあります。ノートは授業の縮図であり、子どもの心の動きや構えを把握できる情報の宝庫といえるものです。ただし、上記のノートの機能を意識した日頃のノート指導のあり方が問われます。つまり、ノートの機能を意図した指示や指導を行ってれば、ノートから意図する情報を得ることができそうですが、そうでなければ、どのような情報が得られるか予測できないでしょう。ワークシートと同様に、どのようなねらいをもつ学習をするのか、その際、如何にノートの機能を活用するか、指示するか、予め想定されていれば、評価に用いることができます。どのような学習のねらいで、どのような指示、指導であったか、その反応がノートに記されていますから、それに即して評価の観点と明確にされており、評価できるのです。もちろん、自由にノートを取らせても、学習のねらいとの関連で評価できます。何れにしても、まず、評価の観点と規準とを明確にして、ノートの分析をすることが大切です。もし、意図した観点以外の評価を試みるのが有効であると判断できるならば、意図する評価の後に行うことです。そうしないと、何を評価しているのかが曖昧になり、その結果、その学習が意図したねらいをもわからなくしてしまう恐れがあるからです。学習のねらいに関連させて、例えば、主に「知識・理解」や「思考・判断」の観点評価が要請されているならば、まず、その観点から評価を行った上で、他の観点、つまり、「関心・意欲・態度」についての貴重な情報が得られるのであれば、新たに評価の観点を加えればよいのです。ノートの分析による方法においても評価の観点と規準を明確にしておくことが必要なのです。

#### (4) 自己評価・ポートフォリオ

多様な評価方法の導入が不可欠である中で、特に子どもたちによる自己評価を工夫することも有効とされています。自己評価を取り入れることによって、「関心・意欲・態度」の把握だけでなく、子どもたちが自己の学習の状況を確認し、次の学習に意欲的に進めるようにするという視点から、子どもたちの学習に役立つものと考えられます。

##### ア 自己評価とはどういうことか

学習活動において自己評価とは、子どもたちが自分の学習活動を振り返り、学習過程や学習成果を評価するとともに、次の学習の改善へつなげることです。つまり自己評価は学習活動と一体化していると言えます。

##### イ 自己評価の進め方

自己評価の方法としては、自己評価カードを作成するか、あるいはワークシートの一部に自己評価項目（チェック項目）を加えることが考えられます。その際、次のような項目が考えられます。

- ① 学習に進んで取り組めたか
- ② 学習内容が理解できたか
- ③ 学習内容から自分の課題をみつけたか
- ④ 自分の学習活動の問題点は何であったか

自己評価では、単に自分の学習過程や学習成果を評価するだけでなく、なぜそのように評価したのかを明確にするように指導することが大切です。なお、具体的なワークシートの作成方法としては、後半の実践例を参考にしてください。

## ウ 自己評価の結果をどのように利用するか

先に述べたように自己評価は学習活動と一体化しています。自己評価という方法は客観性において問題がありますが、自分の学習活動を評価して、自分の課題を見つける能力を育成することは、あらゆる学習活動に役立つものです。教師の役割としては、自己評価の結果を重視するというよりも、さまざまな学習場面で子どもたちが自己評価を行うことができるように指導することが大切と考えられます。同様に、子どもたちが互いに行う相互評価も、学習活動への意欲を高め、新たな課題を見つける上で効果的であると考えられます。

もちろん先に述べたように、自己評価は「進んで学習に取り組もうとしている」という「関心・意欲・態度」の評価の一手段でもありますし、「課題の解決を目指して考え、判断しているか」という「思考・判断」を評価する手がかりにもなります。自己評価によって自分の知識の正確さを確かめることは、「知識・理解」の評価にもつながります。

## エ ポートフォリオを活用した保健学習の実践例

自己評価カードなどの利用のほかに、単元を通じて用いることのできるポートフォリオを作成し、それを自己評価に活かすことも考えられます。教育の場面では、ポートフォリオとは、一般に子どもたちが作る学習記録のことを指します。この学習記録には、作文、観察記録、絵のような制作物、教師からの配布物、新聞の切り抜き、自分自身のメモなど様々なものが含まれます。またパソコン上で作成・保存する形式のポートフォリオでは、デジタルカメラやデジタルビデオカメラで撮影した画像を取り込むこともできます。

このようにポートフォリオは学習記録として様々なものを保存しておくものですが、単に保存するだけではなく、それを活用することが大切です。ポートフォリオを利用することで、教師が子どもたちの学習成果や学習過程を評価することができることに加え、学習者自身が自己評価を行うことが可能になります。

ポートフォリオの長所を生かすためには、保健学習に限定されずに、学級活動や「総合的な学習の時間」などの学習活動と連携させることが効果的と考えられます。次に、実際に小学校でポートフォリオを活用した一例として、東京都江戸川区立篠崎第三小学校の実践を紹介しましょう。

ここでは小学校3年生を対象として、保健領域の単元「毎日の生活と健康」と「総合的な学習の時間」を利用して、ポートフォリオを取り入れた健康教育「体たんけんたい」を実践しています。ポートフォリオは子どもたちが資料を綴じこむ形で作成しています。このポートフォリオには、学習過程にそった複数のワークシートや振り返りカードのほか、学習まとめ新聞という子どもたちの作品も含まれています。



「体たんけんたい」のポートフォリオ  
写真提供：健康に関するポートフォリオ研究会

学習過程にそった複数のワークシートや振り返りカードのほか、学習まとめ新聞という子どもたちの作品も含まれています。

自己評価は主として振り返りカードによって行いますが、学習意欲の高まりなどを評価するだけではなく、健康観の変化のような学習内容に関わる項目においても評価を行うことが容易となります。

なお授業は、担任教師と養護教諭によるTTによって行われています。

## 7. 保健領域と運動領域のバランスを考えた体育科の評定への総括の工夫

体育科の内容は保健領域と運動領域から構成されています。従って、体育科の学習の状況を総括的に評価する「評定」には、保健領域と運動領域それぞれの学習の状況を適切に反映させる必要があります。

その際、指導要録の「観点別学習状況」に示された各観点は評定の基本的な要素となります。周知のように指導要録の体育科の評価の観点には保健領域に関連して3つの観点が示されています。

- ① 運動や健康・安全への関心・意欲・態度
- ② 運動や健康・安全についての思考・判断
- ③ 健康・安全についての知識・理解

各時間におけるこれらの観点別の評価を積み上げて、基本的な要素として評定に反映させる必要があります。

つまり、評定には「健康・安全についての知識・理解」だけでなく、「健康・安全への関心・意欲・態度」及び「健康・安全についての思考・判断」についての学習状況の評価も合わせて総括する必要があります。

観点別学習状況の評価をどのように評定に総括するか、その具体的な方法等については各学校で工夫することとされていますが、たとえば、次のような方法が考えられます。

### (1) 単元の評価への総括の工夫

各時間の学習を観点別に3段階で評価して積み上げ、最後に単元全体の評価として総括する。その際、各時間の評価を得点化（3・2・1）し、総得点が満点の80%以上をA、50以上～80未満%をB、50%未満をCとする。（P42参照）

### (2) 各学期の評価への総括の工夫

保健学習を実施した学期の観点別評価については、運動領域と保健領域の評価を合わせて学期の総括をし、保健学習の評価を「関心・意欲・態度」、「思考・判断」、「知識・理解」のそれぞれの観点到に反映させる。その際、運動領域と保健領域の配分は、「関心・意欲・態度」、「思考・判断」については、運動領域80%程度、保健領域20%程度とし、「知識・理解」については保健領域100%とする。（P65, P85参照）

### (3) 評定への総括の工夫

各学期における3段階の観点別評価を得点化し（A…3点、B…2点、C…1点）評定への総括に利用する。（P67, P87参照）



# II

## 今こそ聞きたいQ & A

---

## Q 1 . 「指導要録」って何？

**A.** 指導要録とは、その学校の在学者や卒業生の学籍並びに指導の過程および結果の要約を記録した書類の原本で、法律で作成と保存が義務づけられ、学校に備えねばならない表簿の一つです。様式や内容についての法令上の定めはなく、様式などは「参考例」が示されており、その決定権は所管教育委員会にあります。教育評価の記載は、各教師ないし教師集団に委ねられています。指導要録は、その後の指導および外部に対する証明等に用いられるとともに、日常の学習指導の評価活動における考え方や方法を示すもので、指導と評価の一体化という考え方の確立に大きな役割を果たしています。

現行の学習指導要領の下での指導要録の基本方針としては、

- ① 評定を目標に準拠した評価（絶対評価）にすること
- ② 「総合的な学習の時間」について、各学校で評価の観点を決めて、評価を文章記述する欄を新設すること
- ③ 「行動の記録」の項目を見直すこと
- ④ 児童生徒の成長の状況を総合的にとらえる工夫ができるよう所見欄等を統合すること

などの改善を図ることが求められています。

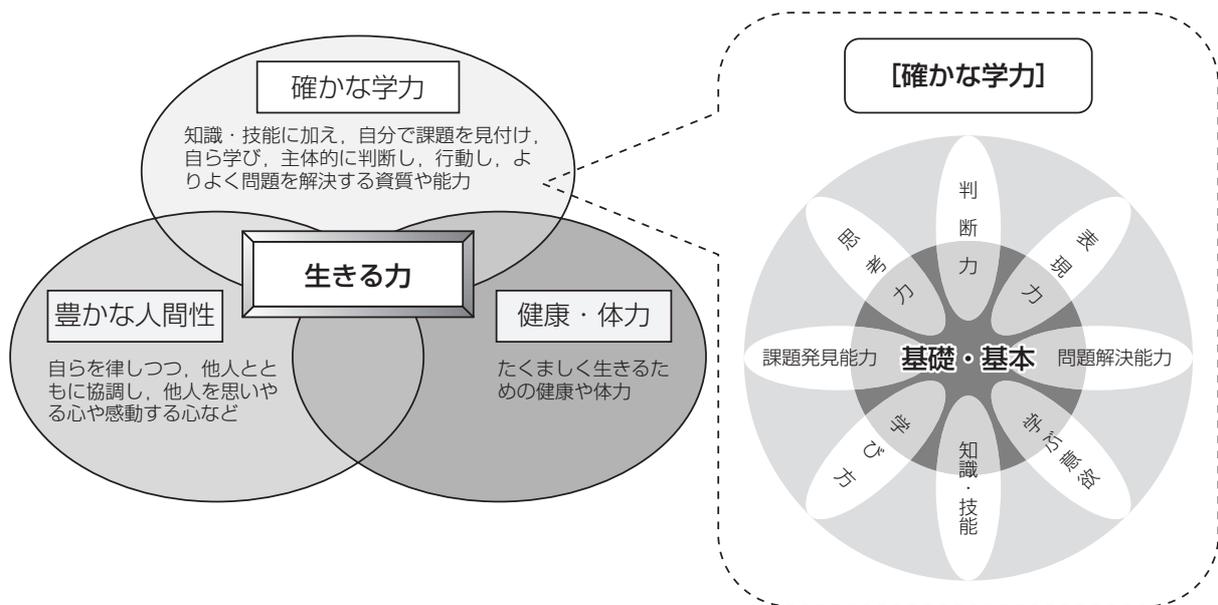
法律で作成と保存が義務づけられている、学校の表簿の一つです。



## Q 2 . 「新しい学力観」とはということ？

A. 「知識・理解」という受容的な学力から基礎・基本を重視しつつも、自ら学ぶ意欲、それに基づく思考力や判断力、表現力などの能力を重視する能動的な学力をも育てようとするのが新しい学力の考え方です。この学力観は、1991年3月の学習指導要録改訂の機会に強調され、従来陥りやすかった知識注入式の指導から学習者の興味や関心を引き出し、学習者自らが応用・展開できるような思考を促し判断を高める指導への変換を求めているといえます。現行の学習指導要領では、そのねらいの一層の実現を引き続き図り、下図に示されている「確かな学力」として、育成のための取り組みの充実が求められています。

※ [確かな学力] とは、知識や技能に加え、思考力・判断力・表現力などまでを含むもので、学ぶ意欲を重視した、これからの子どもたちに求められる学力



(中央教育審議会答申「初等中等教育における当面の教育課程及び指導の充実・改善方策について」2003.10)

自ら学ぶ意欲，それに基づく思考力や判断力，表現力などの能力を重視したものです。



### Q 3 . どうして「基準」でなく、「規準」と書くの？

A. 「評価規準」は、学習指導要領に示された目標が子どもたちによってどの程度実現したかを判断するよりどころとなるものです。子どもたちの学習状況をこの「規準」に照らして、評価を行います。すなわち規準とは目標に準拠して評価するための手段といえるわけです。ここでは「基準」という用語は用いることはありません。次のような理由があるからです。

規準とは異なり、基準とは学習状況の境目を意識したものです。物差しのようなものともいえるでしょう。学校においては、子どもたちの学習状況を段階化し、その境目を意識して子どもたちの学習状況を各段階へ分類することに陥ることがしばしばあります。しかしながら、このような評価では主として数量的な処理に頼るため、結果として相対評価につながってしまいます。規準は基準とは異なり、子どもたちが身につけるべき資質や能力の質的な面をとらえて評価するものです。

量的ではなく、質的な面をとらえて「規準」と書きます。



### Q 4 . 「評定」は「評価」とどう違うの？

A. 評定とは、学習指導要領に示されている各教科の目標に照らして、学習の実現状況を総括的に判断するものです。評定は指導要録には必ず記載されるものですが、いわゆる「通知票」に書き入れる学校も、書き入れない学校もあります。評定の基本的な要素となるのは観点別学習状況の評価です。もちろん評定も、観点別学習状況の評価を踏まえて、目標に準拠して行う必要があります。分析的な観点別学習状況の評価に対して、評定は簡潔で分かりやすい評価情報を提供するものとして、学習状況を総括的に判断するものと位置付けることができます。

なお小学校（3学年以上）において各教科の評定は、「十分満足できると判断されるもの：3」、「おおむね満足できると判断されるもの：2」、「努力を要すると判断されるもの：1」の3段階で行うことになっています。

評定は観点別学習状況の評価をふまえて、総括的に判断するものです。



## Q 5 . 保健領域の「観点別学習状況の評価」はどうするの？

A. 評価の観点は、学習指導要領に示す教科の目標や内容を踏まえ、自ら学ぶ意欲や思考力、判断力などの資質や能力の育成に重点を置いて設定します。

具体的に、保健領域では「健康・安全への関心・意欲・態度」、「健康・安全についての思考・判断」、「健康・安全についての知識・理解」の3つの観点から、次のようなことをとらえて評価します。

○ 健康・安全への関心・意欲・態度

身近な生活における健康・安全に関心をもち、進んで学習に取り組もうとする。

○ 健康・安全についての思考・判断

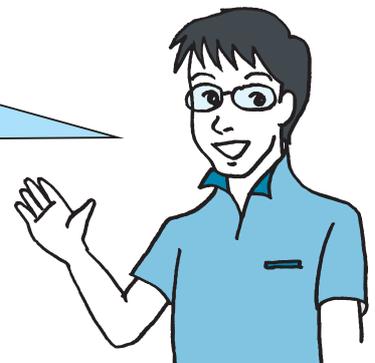
身近な生活における健康・安全について、課題の解決を目指して考え、判断している。

○ 健康・安全についての知識・理解

身近な生活における健康・安全に関して、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解し、知識を身につけている。

これらの評価の観点は、それぞれが完全に独立しているものではなく、相互に関連し合っています。なお、保健領域では、「技能」の観点は示されていません。

「健康・安全への関心・意欲・態度」、「健康・安全についての思考・判断」、「健康・安全についての知識・理解」の3つの観点から評価します。



## Q 6 . なぜ多様な評価の工夫が必要なの？

**A.** 評価の方法としては、これまで「知識・理解」に偏ったペーパーテストによる評価や、学期末などの特定の時期での評価に重点が置かれる傾向がありました。また学習の結果のみについての評価に重点が置かれる傾向もありました。その結果、学習の実現状況の評価に偏りがあり、評価が指導に十分生かされていないなどの課題も指摘されていました。

そこで学習活動の特質、評価の場面や評価規準、子どもたちの発達段階に応じて、ペーパーテスト、質問紙、ワークシート、学習カード、観察、面接、作品、ノートなどの様々な評価方法の中から、その場面における子どもたちの学習状況を的確に評価できる方法を工夫し、選択していくことが求められるようになりました。さらに、子どもたちによる自己評価や子どもたち同士の相互評価を工夫することも有効とされています。

評価を適切に行うという観点に立てば、このようにできるだけ多様な評価を行い、多くの情報を得ることが大切ですが、一方このことにより評価に追われてしまえば、目的が十分に達成できなくなるおそれもあります。評価を常に指導に生かすという姿勢が必要です。

子どもの学習状況を的確に評価するためです。

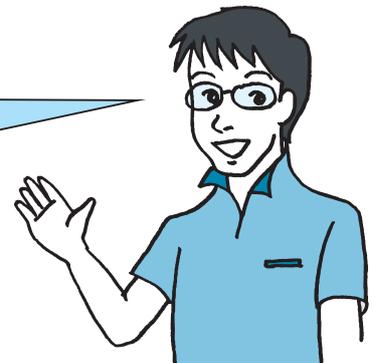


## Q 7 . 授業中に多様な評価をどうやるの？

A. 授業中の評価としては、子どもの発言、話し合いの様子、資料収集の状況等について観察したり記録したりして、学習状況を把握します。毎時間において「関心・意欲・態度」、「思考・判断」、「知識・理解」の3観点について評価することを原則とします。その上で、授業中に学習のねらいや特徴にそって把握すべき学習状況の観点について事前に計画を立てておく必要があります。

教師が観察したり記録したりする際には、具体的評価規準における学習の姿を把握した上で、特に、十分満足できる状況と努力を要する状況にあると判断した子どもの姿をメモしておく、などの方法があります。その際、座席表や整理簿などを活用するとよいでしょう。また、ワークシートに記述が少なくても発言の多い子や、発言が少なくても文章で表現することが得意な子、など様々な姿が予想されるので、より多面的に学習状況を把握できるような計画にすることが大切です。なお、グループによる学習活動については、グループ毎の評価表を作成し、子どもたちの具体的な学習の姿を記録することもできます。

とても前向きで、よい質問です。  
それは計画を立てて、工夫することで可能です。



## Q 8 . 保健領域を評価しても、評定に生かせるの？

A. 評定はその教科の学習状況を総括的に評価するものですから、保健領域の学習状況は、当然体育科の評定に反映させるべきものです。

したがって、保健領域の学習について「関心・意欲・態度」、「思考・判断」、「知識・理解」の3つの観点でみた評価も、運動領域の評価と合わせて、評定の基本的要素とします。

保健領域の評価を評定に結びつけるには、保健領域の学習において、毎時間の観点別評価を積み上げ、単元の評価、学期の評価、さらに学年の評価及び評定に反映させます。

保健領域の評価と運動領域の評価を体育科の評価として総括する場合の考え方や方法などについては、具体的な実践事例が後載されていますので参考にしてください。

もちろんです。生かされなければなりません！



## Q 9 . ペーパーテストでは「知識・理解」をみるの？

**A.** ペーパーテストは、確かに「知識・理解」をみることができます。それとともに、「思考・判断」をみる問題を工夫することができます。授業で学習したことを再生したり、説明したりすることを問う問題は、「知識・理解」をみることになります。学習したことを基に応用したり、分析したり、総合化したりすることを問う問題は、「思考・判断」をみることになります。子どもがどのように解答するかを予想しながら、工夫してみましょう。(P38参照)

(「思考・判断」をみる問題の例)

大人の体になることに不安な友だちに、授業で学んだことから不安をなくすように理由を付けて、アドバイスしてみよう。

おしりやむねが大きくなるなんて、はずかしいな。



友だち

そんなに心配することないよ。



あなた

「思考・判断」をみる問題を評価する際には、保健の授業で学習したことを踏まえて解答しているかが大きなポイントとなります。

【解答例】

- 「みんななることだよ」など一般的な発育の仕方について触れている解答については「おおむね満足」と判断できます。
- 単に「気にしない方がいいよ」という解答については、学習内容を踏まえていないという点で「努力を要する」と判断できます。
- 「人によって早いおそいがあるんだよ」などと個人差を踏まえている解答や、「おとなの体になるためには大切なことだから、前向きに考えようね」などと体の発育・発達を肯定的に受け止めた立場からのアドバイスになっているものは「十分満足」と判断できます。

「知識・理解」をみるだけでなく、「思考・判断」をみる問題を工夫しましょう。



## Q10. 「単元の評価規準」と「学習活動における具体の評価規準」の違いは？

A. 「単元の評価規準」は、単元全体で身に付ける資質や能力をあらわすものです。作成に当たっては、学習指導要領の教科の目標、各学年の目標及び内容、指導要録の改善通知で示されている教科の評価の観点及びその趣旨、学年別の評価の趣旨を踏まえます。

「学習活動における具体の評価規準」は、毎時間の授業の評価に、実際に役立てるものです。作成に当たっては、学習指導要領及びその解説をもとに、「単元の評価規準」で記述されている内容がより具体的に理解できるように、具体の学習活動に即した評価規準とします。

実際の授業では、「学習活動における具体の評価規準」を用いて評価をすることになります。

「単元の評価規準」は、単元全体で身につける資質や能力をあらわします。「学習活動における具体の評価規準」は、毎時間の授業の評価に役立てるものです。



## Q11. 「十分満足できる」、「おおむね満足できる」、「努力を要する」の学習の姿はどう違うの？

A. 学習の評価は、目標に準拠した評価である観点別学習状況の評価を基本とし、3つの観点により、実現の状況を3段階で判断します。その3段階が「十分満足できる」、「おおむね満足できる」、「努力を要する」です。

「単元の評価規準」は、目標に照らして「おおむね満足できる」と判断できる状況を示しています。しかし、子どもが実現している学習状況が「おおむね満足できる」に不足しているものを「努力を要する」状況、質的な高まりや深まりをもっていると判断されるときには「十分満足できる」状況という評価になります。

なお、「学習活動における具体の評価規準」は、「おおむね満足できる」状況で設定します。その際、「十分満足できる」、「努力を要する」状況の学習の姿を描いて作成することが大切です。そうすることで、授業の中で具体の学習活動に即した指導と評価ができるだけでなく、前もって、「努力を要する」状況と判断された子どもの具体的な支援の手だてを考え、準備することが可能になります。

子どもの学習状況を、単純に上、中、下に分けるものではありません。



## Q12. TTの授業では、評価はどうするの？

**A.** 言うまでもなく、TT（ティーム・ティーチング）とは、基礎的、基本的な内容の確実な定着を図ったり、発展的な学習を行ったりする上で、とても効果的な指導方法の一つです。また同時に、評価を行う上でも、学習指導にかかわる複数の教師によって、一人一人の子どもの学習の姿をよく見取ることができるようになると考えられます。

TTの授業では、チームとしての長所を生かした効果的な学習指導と適切な評価が行われることが大切です。評価については、以下の点に留意しましょう。

- ① 事前に、教師同士で評価規準や評価方法等を十分検討し、共通理解を図っておくこと。
- ② 「いつ」、「どこで」、「だれが」、「どのように」評価を行うか、また、それを子どもの学習に「どう生かしていくか」などについて、事前に、教師同士で十分打ち合わせしておくこと。
- ③ 一人の子どもに対して、異なった評価や指導助言をするようなことを避けるために、教師間で適宜情報交換を行い、子どもの学習状況を共通して把握していけるようにすること。

チームとしての長所を生かして、適切に評価することが大切です。



## Q13. 個人内評価はどうするの？

**A.** 教育課程審議会の答申（平成12年12月）において、「児童生徒一人一人のよさや可能性、進歩の状況などを積極的に評価していく観点から、個人内評価を一層充実していくこと」が提言されています。これは、子どもの学習過程における努力や進歩の状況等を的確に判断し、指導に生かすことが大切であることを指摘するものです。ただし、個人内評価については、目標に準拠した評価とは異なり、評定に反映させるものとしていません。そのため、指導のための評価とし、指導要録においては「総合所見及び指導上参考となる諸事項」に文章記述することが適当であるとされています。

個人内評価を一層充実させ、指導に生かしましょう。



# III

こんな指導と評価の工夫はどうですか



## 4年生の展開例

### 1. 単元名「育ちゆく体とわたし」（4時間）

#### (1) 単元の目標

- 体の発育・発達について、進んで課題を見つけたり、課題を調べたり、わかったことを発表したり、友達の意見を真剣に聞いたりすることができるようにする。(関心・意欲・態度)
- 体の発育・発達について、自分の成長を振り返りながら課題を設定し、これからの自分の生活を予想しながら、よりよい発育・発達を目指して解決の方法を考えたり、判断したりすることができるようにする。(思考・判断)
- 体の発育・発達の現象や思春期の体の変化、体をよりよく発育・発達させるための生活の仕方を理解できるようにする。(知識・理解)

体の発育・発達について、体験や実物を通して実践的に理解できるように工夫をしました。



#### (2) 単元計画

は本時を示す

	第1時	第2時	第3時	第4時
主な学習内容と方法	「育ちゆく体の変化」	「体をよりよく発育・発達させるための生活の仕方」	「思春期に起こる体の変化①」	「思春期に起こる体の変化②」
	○ 一般的に体におきる現象 ○ 体の発育・発達の個人差	○ 体をよりよく発達させるための食事 ○ 体をよりよく発達させるための運動 ○ 体をよりよく発達させるための睡眠	○ 大人の体つき ○ 男女の特徴 ○ 発育の個人差	○ 大人の体に近づく現象 ○ 発現時期の個人差 ○ 異性への関心の芽生え
	一斉学習	課題解決的な学習	一斉学習	一斉学習
評価方法等	○ 観察 ○ ワークシート ○ 対話	○ 観察 ○ ワークシート ○ 対話	○ 観察 ○ ワークシート	○ 観察 ○ ワークシート ○ ペーパーテスト

#### (3) 事例の特徴

「育ちゆく体とわたし」は、体の発育・発達の早期化に対応するために4年生で学習することになった単元である。この時期は、発育の個人差が目立ち始める頃であるので、子どもが体の発育を単なる知識として理解するだけにとどめず、自分のこととして実感し、より主体的に受け止められるような学習を展開する必要がある。そして、心と体を一体としてとらえ、自分たちの心や体に起こる様々な変化を期待し、肯定的に受け止めることができる子どもを育てるために、指導と評価を工夫することが大切である。そのためには、体つきの変化という子どもたちが恥ずかしいと思いがちな内容について、羞恥心を取り除き、関心を持って取り組めるような導入が大切となる。

そこで、本時では、導入段階に具体的で楽しいクイズである声当てクイズやシルエットクイズを取

り入れて、思春期の体つきの変化の学習に入れるように工夫することにした。

学習活動の中心段階においては、男女を見比べて体つきの違いや特徴を書き込めるように、ワークシートに大人の男女の裸の後姿を載せた。また、その活動になると恥ずかしがる子どもが出てくるのが予想されたので、具体的な支援策を考え、そのような子どもも前向きに取り組めるよう準備した。さらに、ここでの内容が理解できないと、次の活動でそれを自分に当てはめることができないので、全体での発表の後、もう一度教科書を用いて大切なことを全体で確認することにした。

学習のまとめの段階では、大人になっていく自分の体の変化について予想するとともに、自分に男女の特徴が現われたときの気持ちを書くことができるようにワークシートに記入欄を設けた。このとき、子どもたちに不安を与えないような教師の言葉かけなど、配慮が大切になる。

本時における評価活動であるが、「健康・安全への関心・意欲・態度」については、授業中の観察により評価して、その都度座席表に記入した。「健康・安全についての知識・理解」は、主にワークシートへ子どもが記述した内容について評価した。「健康・安全についての思考・判断」については、子どもの活動の様子を観察した内容を授業中に座席表に記録しておき、授業後にワークシートと併せて評価する方法をとった。

#### (4) 単元の評価規準（おおむね満足できる状況（B）と判断できる子どもの姿の具体例）

	ア 健康・安全への関心・意欲・態度	イ 健康・安全についての思考・判断	ウ 健康・安全についての知識・理解
単元の評価規準	体の発育・発達について、進んで課題を見つけたり、課題を調べたり、わかったことを発表したり、友達の意見を真剣に聞いたりしようとしている。	体の発育・発達について、自分の成長を振り返りながら課題を設定し、これからの自分の生活を予想しながら、よりよい発育・発達を目指して解決の方法を考えたり、判断したりしている。	体の発育・発達の現象や思春期の体の変化、体をよりよく発育・発達させるための生活の仕方を理解し、知識を身に付けている。
学習活動における具体的評価規準	① 体の発育・発達について、今までの自分の成長を見つめながら、課題を見つけようとしている。 ② 教師や友達と共に体験活動に取り組んだり、教科書などの資料を読んだりして課題について調べようとしている。 ③ 体の発育・発達について、友達の意見を聞いたり、自分の考えや意見を言ったりしようとしている。	① 体の発育・発達について、自分の成長や資料等をもとに学習の課題を見つめることができる。 ② 体の発育・発達の仕方と食事、運動、休養及び睡眠について、教科書などの資料をもとに予想したり、傾向や原則を見つけたりすることができる。 ③ 体の発育・発達や思春期の体の変化などについて、自分のことに当てはめて振り返ることができる。	① 体の発育・発達の一般的な現象や思春期の体の変化について知っている。 ② 体の発育・発達や思春期の体の変化には個人差があることを知っている。 ③ 体をよりよく発育・発達させるための生活の仕方について知っている。

「十分満足できる」状況を実現していると判断した子どもの姿の具体例

ア 健康・安全への 関心・意欲・態度	イ 健康・安全についての 思考・判断	ウ 健康・安全についての 知識・理解
<p>① 体の発育・発達について、自分で資料を集めたり、今までの成長を振り返ったりして課題を見つけようとしている。</p> <p>② 課題解決するため、体の発育・発達に関する資料を自分で集めたり、集めた資料で調べたりしようとしている。</p> <p>③ 友達の発育・発達に関する発言を真剣に聞いて意見を言ったり、大切なことをメモしたりして自分の発言や発表に生かそうとしている。</p>	<p>① 体の発育・発達がわかる具体物を活用し、自分の発育・発達を予測しながら、適切な課題を見つけることができる。</p> <p>② 体の発育・発達と食事、運動、休養及び睡眠とのかかわりについての予想や見つけた傾向や原則を課題解決に役立てることができる。</p> <p>③ 体の発育・発達や思春期の体の変化について肯定的に受け止め、学習したことを自分の生活に当てはめることができる。</p>	<p>① 体の発育・発達の一般的な現象や思春期の体の変化について、自分の言葉で具体的に説明できる。</p> <p>② 体の発育・発達や思春期の体の変化の個人差について自分の言葉で具体的に説明できる。</p> <p>③ 体をよりよく発育・発達させるための生活の仕方について、自分の言葉で具体的に説明できる。</p>

「努力を要する」状況と判断した子どもの姿の具体例

ア 健康・安全への 関心・意欲・態度	イ 健康・安全についての 思考・判断	ウ 健康・安全についての 知識・理解
<p>① 教師や友達に励まされても、体の発育・発達に関する課題を見つけようとしないう状態にとどまっている。</p> <p>② 教師や友達に励まされても、体の発育・発達に関する資料で課題を調べようとしないう状態にとどまっている。</p> <p>③ 友達の意見に耳を貸さず、自分の発育・発達に関する意見を言うだけの状態にとどまっている。</p>	<p>① 体の発育・発達について、教師や友達に励まされても課題を見つけられない状態にとどまっている。</p> <p>② 体の発育・発達に関する与えられた資料を書き写している状態にとどまっている。</p> <p>③ 体の急激な発育・発達や思春期の体の変化について、起こったときに考えればいいという状態にとどまっている。</p>	<p>① 体の発育・発達に関する用語を挙げられる状態にとどまっている。</p> <p>② 個人差という用語を挙げられる状態にとどまっている。</p> <p>③ 体を発育・発達させるため生活の仕方について用語を挙げられる状態にとどまっている。</p>

## (5) 指導と評価の計画

時間	ねらい・学習活動	単元の評価規準との関連	評価方法等
1	<p>○ ねらい</p> <p>体の発育・発達について、自分の成長や資料などをもとに課題をもち、課題解決を目指して学習することで、体の発育・成達は年齢に伴って変化すること、それには個人差があることを理解できるようにする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 体の発育・発達についての課題を見つける。</li> <li>2 自分の体の発育・発達について調べる。</li> <li>3 体の発育・発達についてわかったことを話し合う。</li> <li>4 学習のまとめをする。</li> </ol>	<p>ア－①</p> <p>イ－①</p> <p>ウ－①,②</p>	<p>話し合いの様子の観察</p> <p>ワークシート</p> <p>発言の内容, ワークシート</p>
2	<p>○ ねらい</p> <p>体をよりよく発育・発達させることについて、資料をもとに予想したり、傾向や原則を見つけたりしながら、調和のとれた食事、適切な運動、休養及び睡眠が必要であることを理解できるようにする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 給食に毎日牛乳が出るわけについて考える。</li> <li>2 体を発育・発達させるためには、どんな食事をしたらよいか調べ、わかったことを発表する。</li> <li>3 食事以外に、体の発育・発達には、どんなことが関わっているのか話し合う。</li> <li>4 自分の生活を振り返り、学習のまとめをする。</li> </ol>	<p>イ－②</p> <p>ウ－③</p>	<p>話し合いの様子の観察, ワークシート</p> <p>発言の内容, ワークシート</p>

時間	ねらい・学習活動	単元の評価規準との関連	評価方法等
3	<p>○ ねらい</p> <p>思春期の体の変化について，声当てやシルエットクイズ等の様々な活動に進んで参加しながら，思春期になると，体つきに変化が起こり，男女の特徴が現れることを自分に当てはめて考えることができるようにする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 子どもと大人の違いについて話し合う。</li> <li>2 男女の体つきの特徴について話し合う。</li> <li>3 男女の体つきの特徴についてまとめる。</li> <li>4 学習したことを，自分の体に当てはめて考える。</li> </ol>	<p>ア－②</p> <p>ウ－①</p> <p>イ－③</p>	<p>活動の様子の観察 ワークシート (P36参照)</p> <p>ワークシート</p> <p>発言の様子や活動の観察，ワークシート</p>
4	<p>○ ねらい</p> <p>思春期の体や心の変化について，友達の意見を聞いたり，自分の考えや意見を言ったりしながら進んで学習に取り組み，思春期になると，個人差はあるが，発毛，初経，精通などの大人の体に近づく現象が現れること，異性への関心が芽生えることを理解できるようにする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 発毛について予想をもとに話し合う。</li> <li>2 初経，精通を中心に大人の体に近づいてきた現象について考える。</li> <li>3 異性への関心の芽生えについて考える。</li> <li>4 単元のまとめをする。</li> </ol>	<p>ア－③</p> <p>ウ－①,②</p>	<p>話し合いの様子の観察</p> <p>ワークシート ペーパーテスト</p>

## (6) 展開例 第3時 「思春期に起こる体の変化①」

<観点別のねらい>

- 思春期に起こる体の変化に関する課題について、進んで調べることができるようにする。(関心・意欲・態度)
- 思春期に起こる体の変化(体つきの変化)を自分に当てはめて考えることができるようにする。(思考・判断)
- 思春期になると、体つきに変化が起こり、男女の特徴が現れることを理解できるようにする。(知識・理解)

時間	学 習 活 動
10分	<p>1 子どもと大人の違いについて話し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>子どもと大人の体には違いがありますね。どんなところが違うか発表してください。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 背が高くなる。</li> <li>• 大きくなる。</li> <li>• 胸が大きくなる。</li> </ul> <p>声当てクイズをする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;">  <p style="margin-left: 20px;">これから声当てクイズをします。テープの音が。自分より年上の場合は上、年下の場合は下と書きましょう。分かる人は年齢や理由も書いてみてください。</p> </div> <p>テープをもう一度聞いて確認する。</p>
10分	<p>2 男女の体つきの特徴について話し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>これからシルエットクイズをします。ここに映すシルエットが男か女か当ててください。なぜ、男か女か分かったのかな。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;">  <ul style="list-style-type: none"> <li>• 1年生の頃は、後ろ姿では区別がつかない。</li> <li>• 6年生になると分かるね。男は首が太い。</li> <li>• 大人になると女はお尻が丸くなる。</li> </ul> </div>

クイズで興味・関心を高めるなどの展開を工夫しています。評価は座席表やワークシートを活用しています。



## 教師の支援・評価

- 子どもが発言しやすいように、どのような発言でも認めるようにする。
- 前時までの学習を振り返り、身長や体重以外にも違いがないか考えるように助言する。
- 意欲的に学習できるように、声当てクイズを導入する。

### 今回の声当てクイズ

- 男5人（6，8，11，12，21歳）
- 台詞「みんなが楽しみにしていた声当てクイズだよ。ぼくが何歳か当ててごらん。あたったらすごいよ。」
- その人の普通の声で話してもらう。

- 子どもの意欲を高めながら学習できるように、また、体つきの違いが視覚的に分かりやすいように、シルエットクイズを取り入れる。今回は実際の写真（6，12歳の男女の後ろ姿で頭と足を隠したもの）を使用したが多様な方法があるので工夫してほしい。
- これから大人になるための大切な学習であることを説明し、学級全体が真剣に取り組めるように配慮する。
- 後ろ姿でも男女の違いが分かるようになるのはなぜか、考えさせる。

### 関心・意欲・態度の評価（学習活動1，2）

**評価規準** 教師や友達と共に体験活動に取り組んだり，教科書などの資料を読んだりして課題について調べようとしている。（ア-②）

#### 【活動の観察やワークシートから見た十分満足できる状況の例】

- ◎ 声当てクイズの際に友達や教師の声を活用しようとしたり，シルエットクイズで自分から教科書等の資料を開いて答えを見つけようとしたりしている。
- ◎ ワークシートに声当てクイズの答えだけでなく，年齢や答えの理由まで書き込んでいる。

#### 【活動の観察やワークシートから見た努力を要する状況の例と具体的な支援例】

- △ 恥ずかしくてシルエットクイズに参加したがる状態にとどまっている。  
→ 体の発育・発達には誰にでも起こることで，そのことについて学習しておくことの重要性について話をするとともに，恥ずかしい人はワークシートに思ったことを記入するように助言し，友達のワークシートをむやみにのぞかないように全体にも話をする。
- △ ワークシートに声当てクイズの答えを書かない状況にとどまっている。  
→ クイズの答えが全問正解であるよりも，みんなが迷う問題があって，それが，なぜ正解でなかったのか考えることのほうが大事であることを説明する。

時間	学 習 活 動
15分	<p>3 男女の体つきの特徴についてまとめる。</p> <div data-bbox="288 389 1402 483" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>ワークシートの3番に男女の後ろ向きの姿が書いてあります。男女の体つきの特徴について分かったことを書き込んでみましょう。</p> </div> <div data-bbox="320 584 767 909" style="margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 大人になると、筋肉がついてきて男はがっしりした体つきになるね。</li> <li>• 女は脂肪がついて丸みのある体つきになる。</li> <li>• 思春期になると起こり始める。でも、個人差もあるんだね。</li> </ul> </div> <div data-bbox="820 530 1406 963" style="margin-top: 10px;">  </div>
10分	<p>4 思春期の体の変化について学習したことを、自分の体に当てはめて考える。</p> <div data-bbox="288 1106 1402 1249" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>これからみなさんは思春期を迎えます。思春期になると皆さんの体はどうなると思いますか。また、そのときどんな気持ちになるでしょう。考えたことをワークシートの4番に書いてみましょう。</p> </div> <div data-bbox="288 1294 871 1729" style="margin-bottom: 10px;">  </div> <div data-bbox="916 1375 1390 1648" style="margin-bottom: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>• たくましくがっしりした体つきになると嬉しい。</li> <li>• 胸が大きくなったりすると恥ずかしい。</li> <li>• 体が変わっても心配しないでいいんだね。</li> </ul> </div> <div data-bbox="288 1778 1402 1921" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> <p>思春期の体の変化は、これから起こることなんだよ。次の時間は体の内部について学習するよ。慌てたり、不安になったりしないで前向きに受け止めていきたいね。</p> </div>

## 教師の支援・評価

- まず、ワークシートをじっくり観察させ、教科書等の資料は用いないように指示する。
- ワークシートに書き込んだことを、グループで模造紙にまとめさせ、子どもに発表させる。その際、他のグループと違うことだけを発表するように助言し、時間配分に留意する。
- 教科書を用いて整理し、板書で確認する。その際、体つきには個人差や性差があることを押さえる。

### 知識・理解の評価（学習活動3）

**評価規準** 思春期になると、体つきに変化が起こり、男女の特徴が現れることを、知っている。（ウ-①）

#### 【ワークシートから見た十分満足できる状況の例】

- ◎ ワークシートに、思春期になると、体つきに変化が起こり、男女の特徴が現れることを、自分の言葉で説明している。

#### 【ワークシートから見た努力を要する状況の例と具体的な支援例】

- △ ワークシートに記入できない状態にとどまっている。
  - 違いに気付かない場合は男女の図を重ねて、その違いを書くように助言する。恥ずかしくてかけない場合は、気付いた事をメモにして後で提出するようにする。
- △ 男女の体つきの違いについて、髪の毛の長さや服装などを書いている。
  - 首から下の部分を比較するように助言したり、クイズで用いたシルエットから気付いたことはないか考えさせたりする。

- 今まで学習してきたことが自分の体に起こるとなると心配になったり、恥ずかしがったりする子が出てくる。ここでは、教師が思春期の体の変化がこれから起こるというメッセージを肯定的に伝えることが大切である。
- 他の人との違いについて肯定的に受け止め、安心感を持たせるように配慮する。

### 思考・判断の評価（学習活動4）

**評価規準** 思春期の体の変化（声や体つき）について、自分のことに当てはめて振り返ることができる。（イ-③）

#### 【発言の様子や活動の観察とワークシートから見た十分満足できる状況の例】

- ◎ 6年生の体つきと今の自分を比べてこれからのことを予想して発言している。
- ◎ ワークシートに、変声や体つきの変化が、これから自分に起こる体の変化だと前向きに考えて記述している。

#### 【発言の様子や活動の観察とワークシートから見た努力を要する状況の例と具体的な支援例】

- △ 体つきに男女差が起こることをいやらしいことだと考え、思考を止めている。
  - いやらしいという考えを払拭し、肯定的に受け止めた子の話の資料を与える。
- △ ワークシートに、自分にはまだ早いと考えて記述している。
  - 個人差はあるが、これから誰にでも起こることだということを具体的な例を挙げて補足説明する。

資料1 ワークシート

ワークシート3

名前 ( )

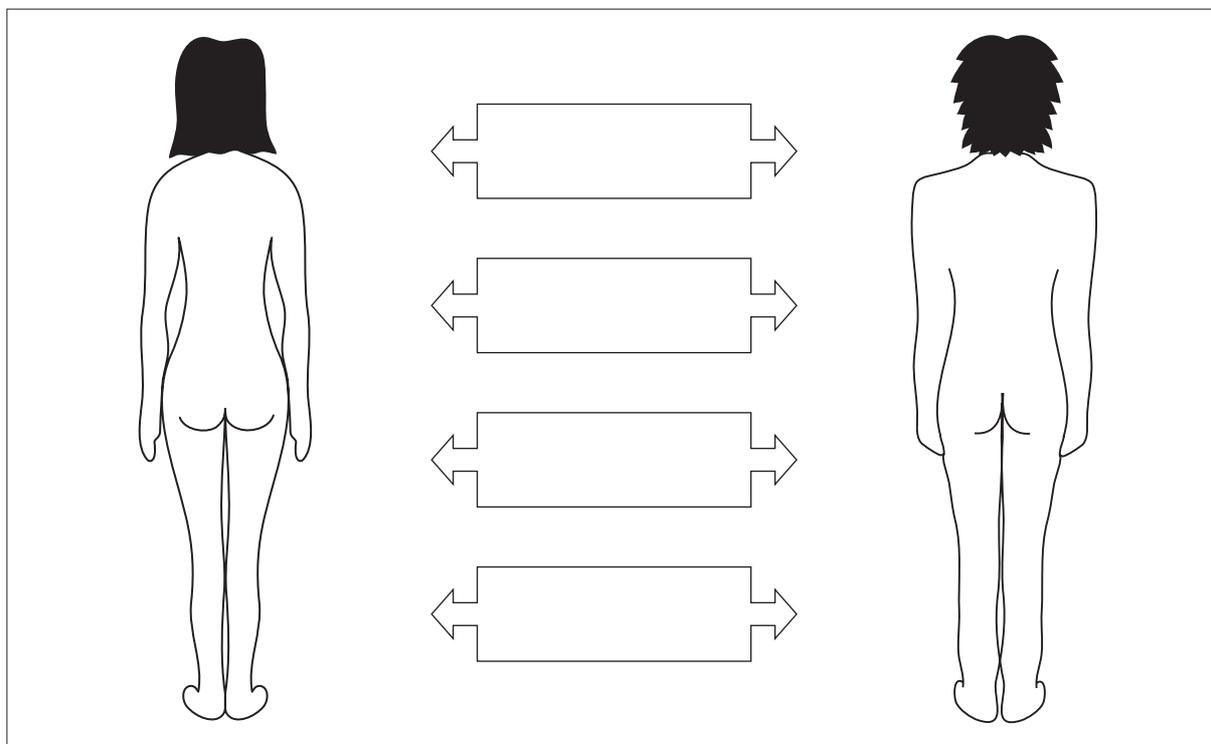
1 大人と子どもの体のちがいについて知っていることを書きましょう。

2 声あてクイズの予想を書きましょう。

①	②	③	④	⑤

理由

3 男女の体つきのとくちょうについて気付いたことを書きましょう。



4 これからの体の変化について予想しましょう。そのときの気持ちも書きましょう。

予想

気持ち

<ワークシート3> 関心・意欲・態度の評価（学習活動1，2）  
 知識・理解の評価（学習活動3）  
 思考・判断の評価（学習活動4）

ワークシート3 名前 ( )

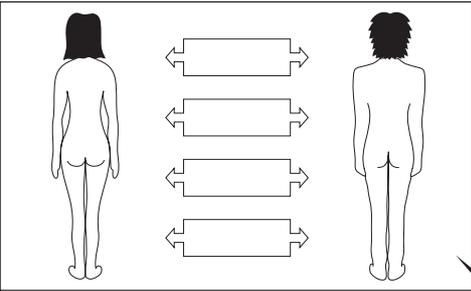
1 大人と子どもの体のちがいで知っていることを書きましょう。

2 声当てクイズの予想を書きましょう。

①	②	③	④	⑤
---	---	---	---	---

理由

3 男女の体つきのとちようについて気付いたことを書きましょう。



4 これからの体の変化について予想しましょう。そのときの気持ちも書きましょう。

予想

気持ち

**設問2**

声当てクイズに子どもたちは意欲的に取り組んだ。上・下と記入するだけでなく、予想した年齢を記入したり、理由を書いたりしている子は「十分満足できる状況」とした。

理由には、「自分の声より低い」「声が高い」等、声の高低に関することが多かったが、話すスピードに関するものもあった。

**設問3**

シルエットクイズが参考となり、首、肩、腰の幅の男女差に気づいて、図に書き込んでいる子が多かった。身長の違いや髪の長さだけしか書いていない子を「努力を要する状況」ととらえ、教科書等を用いて体つきの違いに気づかせるよう支援した。

**設問4**

男子はがっしりした体つきになることにに対してうれしいと書いている子がほとんどだった。女子も胸やお尻が大きくなることにに対してうれしいと答えている子が多かったが、「恥ずかしい」「気持ち悪い」と否定的な気持ちを書いている子もいた。これから起こることで不安に思うことはないという教師の言葉かけで、肯定的に受け止めるようになった。

観察ではワークシートを見ることにも抵抗した子がいたが、ワークシートに「うれしい」と書いていた。このことから、評価を多様な方法で行うことの大切さを実感した。

**指導と評価の工夫**

本時は、楽しく恥ずかしがらずに学習できるように、2つのクイズを導入した。この2つのクイズとも、全問正解を狙っているものではなく、正解になる問題の時期を考えることに意義がある。したがって、クイズに正解することよりも、クイズの意味について考えようとしている子を評価していきたい。そのためには、ワークシートや教師の発問を工夫することが大切である。例えば、声当てクイズではクイズの答えだけでなく、年齢を予想させたり、理由を考えさせたりする欄をワークシートに設け、子どもに挑戦させた。

思考・判断の評価では、思春期の身体の変化について、自分に当てはめ、肯定的に考えることができたか読みとれるように設問4を考えた。今回は観察とワークシートで思考・判断を評価したが、ワークシートの記述について子どもと対話するとより正確な評価ができる。

資料2 ペーパーテスト（「思考・判断」をみる問題例）

ほけんテスト

4年組（ ）

1 こんな友達の見解をどう思う。あなたの考えを書いてみよう。

**友だち**



外で遊ぶよりも、毎日、部屋でゲームしていた方が楽しいよ。

**あなた**



(1) それはおかしいよ。おなかがすかないから、ご飯がおいしくないし、体によくないよ。

あなたは、(1) といったことに対して、賛成ですか、反対ですか。( ) に○をつけましょう。また、(2) にそう考えた理由も書いてください。

賛成 ( )

反対 ( )

)

---



---



---



---

2 大人の体になることに不安な友だちに、授業で学んだことから、不安をなくすように理由をつけて、アドバイスしてみよう。

**友だち**



おしりやむねが大きくなるなんて、はずかしいな。

**あなた**



そんなに心配することないよ。

---



---



---



---



---



---



---

**友だち**

ひげがはえるなんて、いやだな。

資料3 座席表

第3時「思春期の体の変化①」

具体的な評価規準（思考・判断）

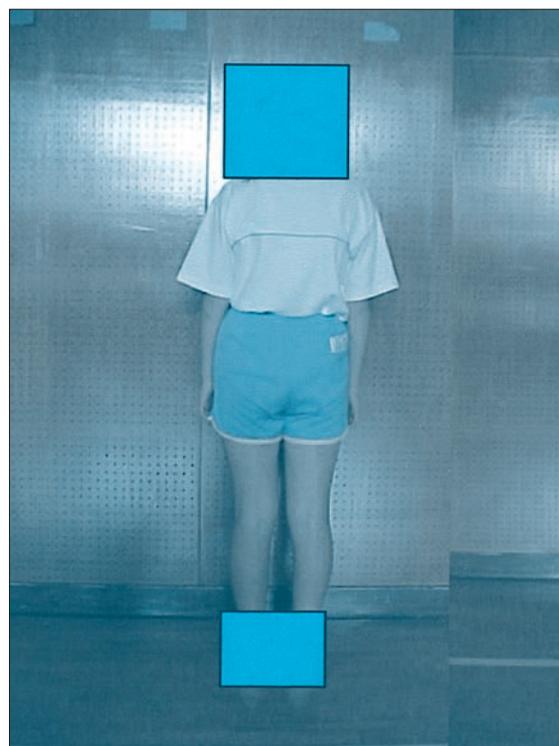
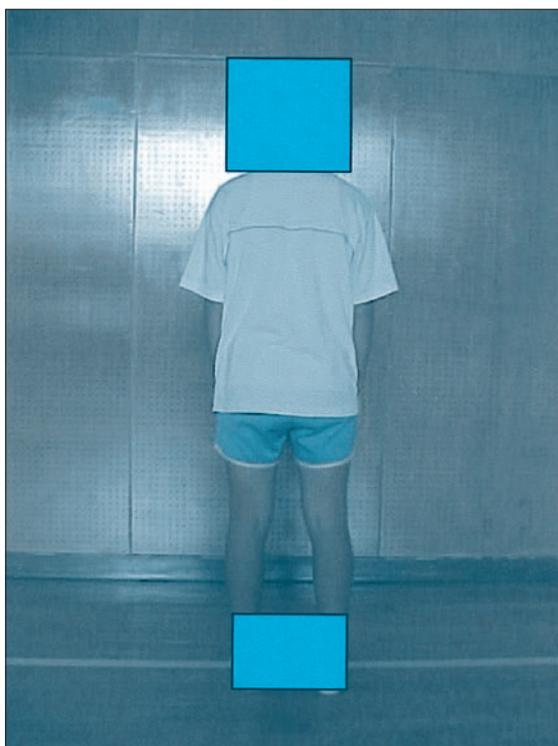
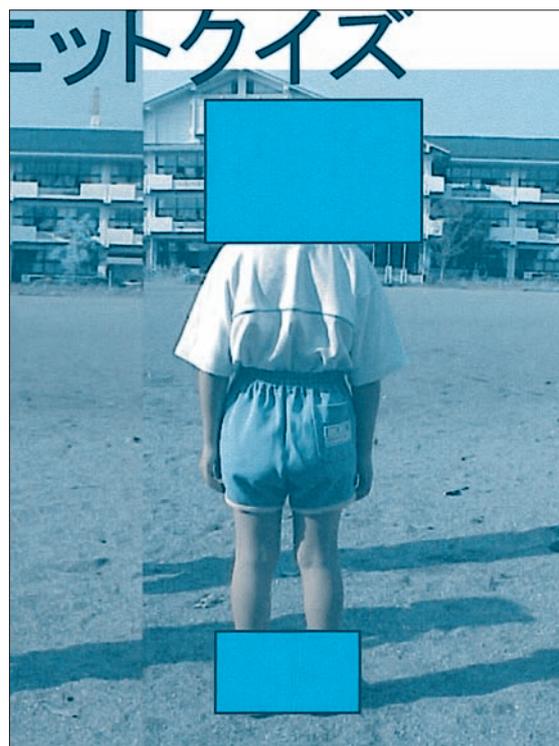
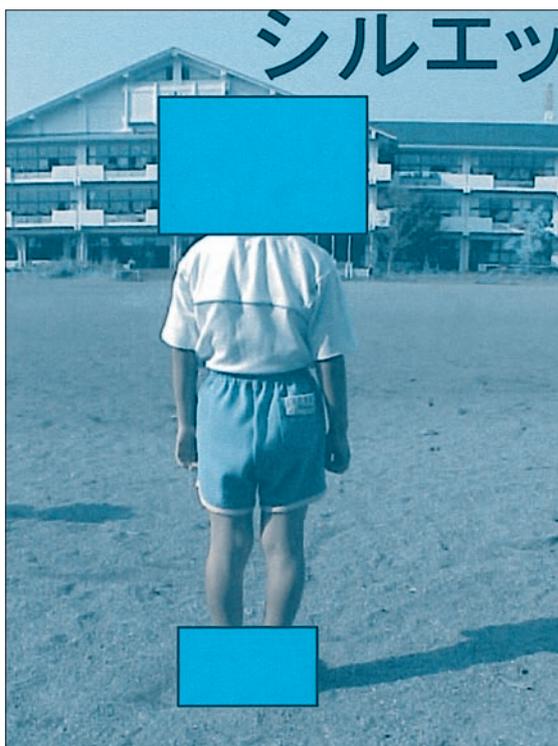
○ 体の発育・発達や思春期の体の変化などについて、自分のことに当てはめて振り返ることができる。

(◎ 「十分満足できる」状況の例：体の発育・発達や思春期の体の変化について肯定的に受け止め、学習したことを自分の生活に当てはめることができる。)

(△ 「努力を要する」状況の例：体の急激な発育・発達や思春期の体の変化について、起こったときに考えればいいという状態にとどまっている。)

1 ○	2 △	3 ○	4 ○	5 ○	6 ○
友達の意見を参考にしながら前向きに考えている。		自分にはまだ早いと考えている。		教師の助言で思春期の体の変化についてこれからの自分のこととして考えることができた。	
7 ○	8 ○	9 ◎	10 ○	11 ○	12 ○
				6年生の体つきと今の自分を比べてこれからのことを予想している。	
13 ◎	14 ○	15 ◎	16 ○	17 ◎	18 ○
思春期の体の変化には個人差があることを自分に当てはめて考えている。		男女の体つきのちがいが起こる理由について考えている。			
19 ○	20 ○	21 ○	22 ○	23 ○	24 ○
25 ◎	26 ○	27 ◎	28 ○	29 ○	30 △
本字で学習したことを用いて自分に当てはめて考えている。		これから自分に起こる体の変化を前向きに考えている。		体つきに男女差が起こることをいやらしいことだと考え、思考を止めている。	
31 ○	32 ○				

資料4 シルエットクイズ



## (7) 実践を終えて

### ① 授業者のコメント

導入時に、声当てクイズやシルエットクイズなどを取り入れ、指導を工夫したことによって、子どもの興味・関心を高めることができた。このことが、体つきを調べるグループ活動や学習したことを自分に当てはめて考えるまとめの活動にもよい影響を与え、1時間を通して、子どもたちが意欲的に活動することにつながった。こうした工夫は、本時だけでなく単元全体で、例えば、「小さい頃の服や靴を身に付け成長を実感する」、「学校給食に出される牛乳パックを用いて考えるといった体験や具体物を取り入れて、実践的に理解できるように図ってきたこととも関係していると感じた。シルエットクイズは、興味・関心を高めるだけでなく、服を着た後ろ姿の男女から裸の男女へと学習が進む際に、子どもが恥ずかしいと感じることを緩和することに効果的だった。

男女の体つきの違いを理解し、それをもとに自分に当てはめて考える学習では、ほとんどの子どもが、大人の体つきに変化していくことを「うれしい」と考えることができた。しかし、胸や尻が大きくなることを「恥ずかしい」、「気持ち悪い」と発言した子どももいた。教師の「思春期の体の変化は、これからみんな起こることなんだよ。次の時間は体の内部について学習するよ。慌てたり、不安になったりしないで前向きに受け止めていきたいね」という言葉かけがその子どもたちの考えを前向きに変えていった。教師の一つ一つの支援が大変重要であることを改めて実感した。

評価については、本時では各観点一つずつの3回の評価を計画した。実際の授業では、関心・意欲・態度、知識・理解の評価を観察及びワークシートで行い、思考・判断についてはワークシートに書いている内容をみながら、指導を行い、最終的には授業中の観察記録と子どもが提出したワークシートをもとに授業後に行った。ワークシートを工夫して評価しやすくしておいたため、適切に評価できた。保健領域は、時間数が少ないので、1時間で3観点の評価ができるように工夫していくことが重要と思った。そのためには、他の教科の学習以上にワークシートの工夫や授業中の記録の蓄積に留意する必要があると言えよう。

また、指導と評価の一体化が大切であることがよくわかった。本時は男女の体つきの違いを理解し、自分の身体の変化や個人による発育の違いなどについて肯定的に受け止めることができることをねらった。つまり、体つきについて指導したことをしっかり評価することが次の学習の成立に欠かせない。テストだけでなく、授業中に知識・理解の評価をする事の必要性も実感した。

### ② 観察者のコメント

まず、授業の導入の工夫がいかに大切であることを改めて教えられました。リアルな教材・教具の準備と的確な発問によって、子どもたちを一瞬にして集中させ、クラス全体の授業のねらいにそった思考へと導いています。また、授業展開での机間支援は、一人一人の子どもの状況に応じたもので、肯定的な助言が目立っていました。この他にも、授業者による学習指導の工夫は随時に見られます。これらは、目標に準拠した評価の考え方や評価計画を強く意識したことによって、いっそう探求された成果と言えます。本来のあるべき授業を実現することと目標に準拠した評価を工夫することは有機的に連動していることを、この実践は示していることに注目したいものです。

## (8) 単元の観点別学習状況の評価と評定への総括

### ① 単元の観点別学習状況の評価

本単元では、学習活動における具体的評価規準に照らし、各時間とも◎「十分達成」、○「おおむね達成」、△「努力を要する」の3段階で評価する。本単元の性質上、アの③、イの③を重点化し、一人一人を認め合う雰囲気の中、自分の成長を肯定的に考えられるようにした。単元の評価では、◎「十分達成」3点、○「おおむね達成」2点、△「努力を要する」1点で計算し、個人の総得点÷満点の百分率で計算し、50%以上～80%未満をB、80%以上をA、50%未満をCとする。また、機械的に評価するのではなく、単元の評価規準に照らして十分満足できるときはA、努力を要するときはCとする。

なお、体育科では、保健領域と運動領域のバランスを考え、適切に評価できるように配慮する必要がある。

氏名	観点	学習活動における具体的評価規準	第1時	第2時	第3時	第4時	単元の評価
氏名	ア 関心・意欲・態度	① 体の発育・発達について、今までの自分の成長を見つめながら、課題を見つけようとしている。	○	-	-	-	A
		② 教師や友達と共に体験活動に取り組んだり、教科書などの資料を読んだりして課題について調べようとしている。	-	-	○	-	
		③ 体の発育・発達について、友達の意見を聞いたり、自分の考えや意見を言ったりしようとしている。	-	-	-	◎ ×2	
健康 太郎	イ 思考・判断	① 体の発育・発達について、自分の成長や資料などをもとに学習の課題を見つけることができる。	◎	-	-	-	B
		② 体の発育・発達の仕方と食事、運動、休養及び睡眠について、教科書などの資料をもとに予想したり、傾向や原則を見つけたりすることができる。	-	○	-	-	
		③ 体の発育・発達や思春期の体の変化などについて、自分のことに当てはめて振り返ることができる。	-	-	○ ×2	-	
郎	ウ 知識・理解	① 体の発育・発達の一般的な現象や思春期の体の変化について理解し、知識を身に付けている。	◎	-	◎	◎	A
		② 体の発育・発達や思春期の体の変化には個人差があることを理解し、知識を身に付けている。					
		③ 体をよりよく発育・発達させるための生活の仕方について理解し、知識を身に付けている。	-	○	-	-	

### 表の見方

1時間に9つすべてを評価するのではなく、授業の重要なところに絞り、単元を通して3観点で評価を行うようにする。例えば、知識・理解は、第1時に体の発育・発達の一般的な現象、第2時に生活の仕方、第3、4時に思春期の体と心の変化について押さえるようにする。

【一覧表】

氏名	評価の観点	第1時			第2時			第3時			第4時			単元の評価
		①	②	③	①	②	③	①	②	③ ×2	①	②	③ ×2	
1	ア 関・意・態	◎	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	◎	A
	イ 思考・判断	◎	-	-	-	○	-	-	-	○	-	-	-	B
	ウ 知識・理解	○	-	-	-	◎	-	○	-	-	○	-	-	B
2※	ア 関・意・態	○	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	◎	A
	イ 思考・判断	○	-	-	-	○	-	-	-	◎	-	-	-	A
	ウ 知識・理解	○	-	-	-	◎	-	◎	-	-	◎	-	-	A
3	ア 関・意・態	○	-	-	-	-	-	-	△	-	-	-	○	B
	イ 思考・判断	○	-	-	-	○	-	-	-	△	-	-	-	B
	ウ 知識・理解	○	-	-	-	○	-	◎	-	-	○	-	-	B
4	ア 関・意・態	◎	-	-	-	-	-	-	◎	-	-	-	◎	A
	イ 思考・判断	◎	-	-	-	○	-	-	-	○	-	-	-	B
	ウ 知識・理解	◎	-	-	-	○	-	○	-	-	○	-	-	B
5	ア 関・意・態	○	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	○	B
	イ 思考・判断	○	-	-	-	◎	-	-	-	◎	-	-	-	A
	ウ 知識・理解	○	-	-	-	◎	-	○	-	-	○	-	-	B
6	ア 関・意・態	◎	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	◎	A
	イ 思考・判断	◎	-	-	-	○	-	-	-	○	-	-	-	B
	ウ 知識・理解	○	-	-	-	○	-	○	-	-	◎	-	-	B
7	ア 関・意・態	△	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	◎	B
	イ 思考・判断	○	-	-	-	○	-	-	-	◎	-	-	-	A
	ウ 知識・理解	○	-	-	-	◎	-	◎	-	-	◎	-	-	A
8	ア 関・意・態	△	-	-	-	-	-	-	△	-	-	-	○	B
	イ 思考・判断	△	-	-	-	○	-	-	-	△	-	-	-	C
	ウ 知識・理解	△	-	-	-	○	-	△	-	-	○	-	-	B

※重点化してある項目を2倍にして計算すると、どの観点もA評価となる。

## ② 評定への総括の事例

評定への総括の事例には、様々な方法が考えられるが、本事例では、各学期の観点別評価の点数を決め、保健領域と運動領域のバランスをとるように考えた。

4年生の体育科における領域と内容は表1（P44）の通りである。領域数は6で、内容数が13である。単元数は内容数に近いので、表2のようなバランスにした。

表1 第4学年の体育科における領域と内容

領 域	内 容		配当時間の目安
A 基本の運動	a 走・跳の運動	b 力試しの運動	22
B ゲーム	a バスケットボール型ゲーム		24
	b サッカー型ゲーム		
	c ベースボール型ゲーム		
C 器械運動	ア マット運動	イ 鉄棒運動	18
	ウ 跳び箱運動		
D 水泳	ア クロール	イ 平泳ぎ	12
E 表現運動	ア 表現	イ リズムダンス	10
F 保健	(2) 育ちゆく体とわたし		4
	合 計		90

表2 各学期における観点別評価の点数

評価の観点	1学期	2学期	3学期
関心・意欲・態度	100 (20)	150	150
思考・判断	100 (20)	150	150
技能	100	150	150
知識・理解	100	-	-

※1学期の(20)は保健領域の内数

※2・3学期は、学年としての子どもの力を評価するまとめの時期と考え、他の学期に比べて重点配分した。

表3 単元の観点別評価の点数

学 期	1学期					2学期					3学期		
	かけっこ・リレー	鉄棒運動	バスケットボール3オン3	育ちゆく体とわたし	クロール	平泳ぎ	表現	幅跳び・高跳び	ハンドベースボール	跳び箱運動	力試し・障害走	マット運動	サッカー
関心・意欲・態度	20	20	20	20	20	30	30	30	30	30	50	50	50
思考・判断	20	20	20	20	20	30	30	30	30	30	50	50	50
技能	20	20	20	-	20	30	30	30	30	30	50	50	50
知識・理解	-	-	-	100	-	-	-	-	-	-	-	-	-

## 5年生の展開例

### 2. 単元名 「けがの防止」(5時間)

#### (1) 単元の目標

- 体験や資料をもとに、自分のめあてをもって、友だちと互いに協力し合いながら学習し、日常生活に生かすことができるようにする。(関心・意欲・態度)
- 見通しをもって課題解決に取り組み、必要な資料を収集・選択・整理して、発表することができるようにする。(思考・判断)
- けがをしたときは、速やかに手当をする必要があるか判断して、簡単な手当ができるようにする。(思考・判断)
- 交通事故、学校生活の事故などの防止には、周囲の危険に気付いて的確な判断の下に安全に行動することや、安全に生活でき、環境を整えることが必要なことを理解できるようにする。(知識・理解)

けがの防止について、課題解決的な学習やTTによる実習を取り入れました。



#### (2) 単元計画

は本時を示す

	第1時	第2時	第3時	第4時	第5時
主な学習内容と方法	けがの防止				けがの手当
	学習計画を立て、見通しをもつ。	→ けがの発生要因を知る。	→ 発生要因をもとにして身近なけがの原因を考える。	→ 要因をもとにしてけがの防止方法を考える。	→ まとめる
評価方法等	課題解決的な学習				TT, 実習
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 話し合いや活動の様子の観察</li> <li>○ ワークシート</li> <li>○ 発言の内容</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 発言の内容</li> <li>○ ワークシート</li> <li>○ 活動の様子の観察</li> <li>○ ペーパーテスト</li> </ul>

### (3) 事例の特徴

本単元のねらいは、「けがの防止について理解するとともに、けがなどの簡単な手当ができるようにすること」である。このため、内容として次の3点を中心に構成した。

第1に、課題解決的な学習で、第1時から第4時までを行う。自分なりの課題をもって「どうしたらけがを防ぐことができるのか」を考えて、調べまとめることで、日常生活にすぐに生かせるように配慮した。また、第5時を実習の時間とし、「もし、けがをしてしまったらどうしたらいいのか」、「自分でできる手当は何か」を明確にし、実践を通して理解できるようにした。

第2に、調べ学習では、交通事故や学校でのけがなど、調べる時間を十分確保できるように配慮した。課題をもったあと、次時までの間に、学校や地域を調べる時間を与えることで、グループでの活動の時間を保障した。

第3に、「けがの手当」は、子どもと教師とで、けがの手当について考える機会を設定した。あらかじめ、数人の児童と一緒に寸劇を演じてみせることで、子どもが具体的なイメージをもって考えられるようにした。また、養護教諭とのTTによって、専門的な立場からかかわっていただき、より実践的に理解できるようにした。

高学年は、論理的な思考ができるようになり、自ら課題を見つけ、解決していく能力を育てていく大切な時期である。したがって、まずフィールドワークや、実習を行うことによって、「自分の健康を守り、楽しく生活する」にはどうすればよいか分かり、そのことを実現していく態度を育てていきたい。つまり、今までの自分の生活を振り返りながら、けがの発生原因をつきとめ、さらにけがを防ぐために、自分たちですぐに取り組めることを考えさせたい。

そこで、本単元では、今までの経験をもとに、けがの発生場所を調べたり、原因を考えた上で、防ぐ具体的な方法を考え出す活動を取り入れた。また、もしけがをしてしまったらどうすればよいか、いざというときにすぐに適切な行動をとれるよう、けがの手当をする実習を取り入れた授業を組み立てた。

その際、実習の場面では、養護教諭との連携を図り、役割を分担し、子どもたちが設定したけがの場面ごとに、考えながら実習できるよう配慮した。また、授業の趣旨にそった評価規準を作成し、指導と評価の一体化を試みた。

評価規準の作成手順は、単元の評価規準に基づいて、学習活動における評価規準の「おおむね満足している」状況を3観点ごとに想定し、さらに、「十分満足している」状況と「努力を要する」状況を子どもの姿を予想し、設定した。

「おおむね満足している」状況は、「健康・安全への関心・意欲・態度」では、学習に対する子どもの前向きな姿勢を「実際の場所を見に行ったり、生活を振り返ったりして、課題を見つけようとしている」、「教師や友達と共に、課題を調べようとしている」、「自分の考えや意見を言おうとしている」と捉え、作成した。

「健康・安全についての思考・判断」では、課題解決的な学習や体験的な学習に取り組み、考えたり、判断したりしている子どもの姿を「よい点や問題点を見つける」、「予想したり、関係を見つめたりする」、「自分の生活に当てはめている」と捉え、作成した。

「健康・安全についての知識・理解」の評価規準は、学習指導要領に示された基礎的・基本的事項を理解し、知識を身に付けている子どもを「～を説明している」、「～を選んでいる」という姿でとらえ、作成した。

(4) 単元の評価規準（おおむね満足できる状況（B）と判断できる子どもの姿の具体例）

	ア 健康・安全への 関心・意欲・態度	イ 健康・安全についての 思考・判断	ウ 健康・安全についての 知識・理解
単元 の 評 価 規 準	身近な生活におけるけがの原因やその防止，手当について関心をもち，進んで課題を見つけようとしたり，意欲的に課題解決に取り組んだりしようとしている。	身近な生活におけるけがの原因やその防止，簡単な手当について課題を設定し，解決の方法を考えたり，判断したりしている。	身近な生活におけるけがの原因やその防止，手当について，課題解決を通して実践的に理解し，自分の生活に役立つ知識を身に付けている。
学 習 活 動 に お け る 具 体 の 評 価 規 準	<p>① 事故やけがについて話を聞き，その例を挙げたり，課題を見つけようとしている。</p> <p>② 事故やけがの原因や防止の方法について，よりよい解決のために情報を集めたり，考えを出し合ったりしようとしている。</p> <p>③ 事故やけがの防止の方法について，友だちの意見を聞いたり，自分の考えや意見を言ったりしようとしている。</p> <p>④ 今までに自分が体験したけがについて，自分なりに，どのような手当をしてきたのか，振り返ろうとしている。</p>	<p>① 事故やけががどんな原因で起こるかについて，自分たちの生活を振り返り，問題点を見つけることができる。</p> <p>② 課題解決に向けて具体的な生活場面や資料をもとに，けがの原因やその防止の方法を関連付けて整理することができる。</p> <p>③ けがの原因やその防止について，自他の考えの違いやよさを見つけたり，自分の生活に当てはめて振り返ることができる。</p> <p>④ けがの場所や症状に応じた簡単なけがの手当の仕方を確かめることができる。</p>	<p>① けがの原因について，人の行動やまわりの環境がかかわっていることを知っている。</p> <p>② けがの原因と防ぎ方について知っている。</p> <p>③ 簡単なけがの手当の意義や方法について知っている。</p>

「十分満足できる」状況を実現していると判断した子どもの姿の具体例

ア 健康・安全への 関心・意欲・態度	イ 健康・安全についての 思考・判断	ウ 健康・安全についての 知識・理解
<p>① 事故やけがについて自分で資料を集めたり、今までのけがの経験を振り返ったりして、課題を見つけようとしている。</p> <p>② よりよい課題解決をするため、事故やけがの原因や防止の方法についての情報を自分で集めたり、集めた情報をもとに考えを出したりしようとしている。</p> <p>③ 友だちの事故やけがの防止の方法に関する発言を真剣に聞いて意見を言ったり、大切なことをメモしたりして、自分の発言や発表に生かそうとしている。</p> <p>④ 今まで自分が体験したけがについて、自分なりに、どのような手当をしてきたのか振り返り、簡単なけがの手当の意義や方法について、進んで発言しようとしている。</p>	<p>① 事故やけががどんな原因で起こるか、具体的な情報を活用し、自分たちの生活を振り返りながら、適切な課題を見つけることができる。</p> <p>② けがの原因やその防止の方法とのかかわりについての予想や見つけた傾向や原則を、課題解決に役立てることができる。</p> <p>③ けがの原因やその防止の大切さを考え、自他の考えの違いやよさを見つけたり、自分の生活に当てはめて振り返ったりすることができる。</p> <p>④ けがの場所や症状に応じた様々なけがの手当の仕方を、今までの経験を生かしながら、確かめることができる。</p>	<p>① けがの原因について、人の行動やまわりの環境がかかわっていることを、自分の言葉で具体的に説明できる。</p> <p>② けがの原因と防ぎ方について、自分の言葉で具体的に説明できる。</p> <p>③ 簡単なけがの手当の意義や方法について、自分の言葉で具体的に説明できる。</p>

「努力を要する」状況と判断した子どもの姿の具体例

ア 健康・安全への 関心・意欲・態度	イ 健康・安全についての 思考・判断	ウ 健康・安全についての 知識・理解
<p>① 教師や友だちに励まされても、事故やけがに関する課題を見つけようとしないうちにどまっている。</p> <p>② 教師や友だちに励まされても、事故やけがの原因や防止の方法についての情報をもとに、課題を調べようとしないうちにどまっている。</p> <p>③ 友だちの意見に耳を貸さず、事故やけがの防止の方法についての自分の意見を言うだけの状態にとどまっている。</p> <p>④ 友だちの意見に耳を貸さず、けがの手当の仕方について、自分の意見を言うだけの状態にとどまっている。</p>	<p>① 事故やけががどんな原因で起こるかについて、教師や友だちに励まされても課題を見つけることができない状態にとどまっている。</p> <p>② 具体的な生活場面や資料をもとに、けがの原因やその防止の方法を書き写している状態にとどまっている。</p> <p>③ けがの原因やその防止について、けがをしたときに考えればよいという状態にとどまっている。</p> <p>④ けがの場所や症状を考えずに、適当に手当をしている状態にとどまっている。</p>	<p>① けがの原因に関する用語を挙げられる状態にとどまっている。</p> <p>② けがの原因と防ぎ方について用語が挙げられる状態にとどまっている。</p> <p>③ 簡単なけがの手当の方法について、用語を挙げられる状態にとどまっている。</p>

## (5) 指導と評価の計画

時間	ねらい・学習活動	単元の評価規準との関連	評価方法等
1	<p>○ ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日常生活の中で、自分たちがいろいろな事故やけがを経験していることに気付き、けがの防止について、関心と課題意識をもつことができるようにする。</li> <li>けがは、人の行動や周りの環境がかかわって起こり、人の行動には心の状態や体の調子に関係していることがわかる。</li> </ul> <p>1 自分のけがの経験(学校生活や家庭・地域社会での事故、交通事故など)を出し合い、そのときの気持ちや困ったことなどを話し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>今までに、いつ、どこで、どんなけがや事故にあいましたか。</p> </div> <p>*学校における事故やけがの例を、フラッシュカードに書き、黒板に貼る。</p> <p>*課題解決の方法(プロセス)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 原因を見つける</li> <li>② 対策を考える</li> <li>③ 対策を実行する</li> </ol> <p>2 けがの発生要因を知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>同じ原因ごとに仲間分けをしてみよう。</p> </div> <p>*人の行動(心の状態や体の調子)</p> <p>*周りの環境</p> <p>3 けがの原因と防止の方法を考える。</p> <p>4 学習のまとめをする。</p>	<p>ア-①</p> <p>イ-①</p> <p>ウ-①</p>	<p>&lt;事前準備&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ワークシート</li> <li>けがの経験に関するアンケート</li> <li>交通事故、学校生活の事故、水の事故に関する事例収集</li> </ul> <p>話し合いの様子を観察</p> <p>ワークシート</p> <p>発言の内容、ワークシート</p>



時間	ねらい・学習活動	単元の評価規準との関連	評価方法等
4	<p>*交通事故についても考える。 (地域の様子も調べてくる。)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>家の周りに、危ないところや安全に工夫しているところはないか調べてこよう。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>家の周りでは、どんな事故があるかな。</p> </div> <p>*交通事故（一時停止，右左の安全確認） *水の事故</p> <p>5 これまでの学習を生かして，今後の自分の具体的な取り組みについて考え，まとめる。 *周囲の危険に気付いて，的確な判断の下に安全に行動する。(心の状態，体の調子) *環境を安全に整える。 *校舎や遊具など施設・設備を安全に整える。(安全な環境をつくる。) *安全施設の整備，適切な安全規則の遵守（通学路や地域の安全施設の改善）</p>	イー③	発言の内容，ワークシート
5	<p>○ ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• けが人が出たときは，落ち着いて観察する，正しく通報するなど，速やかに適切に対処する必要があることがわかる。</li> <li>• すりきずや切り傷，ねんざ，打撲，鼻出血，やけどなど，けがをしたときの簡単な手当ができる。(症状の悪化を防ぐため)</li> </ul>		

時間	ねらい・学習活動	単元の評価規準との関連	評価方法等
5	<p>1 けがの手当について考える。</p> <p>2 けがの経験を話し合い、けがをしたときに配慮することを知る。  *けがの種類や程度などの状況をできるだけ速やかに把握して処置する。  *近くの人に知らせる。</p> <p>3 すり傷、鼻出血、やけど、打撲の手当の仕方を知る。  (それぞれ5分ずつ)  *傷口を清潔にする。  *圧迫して出血を止める。  *患部を冷やす。</p> <p>4 手当の仕方を実習する。</p> <p>5 まとめをする。</p>	<p>ア-④</p> <p>イ-④</p> <p>ウ-③</p>	<p>発言の内容、ワークシート</p> <p>活動の様子の観察</p> <p>発言の内容、ワークシート  (ペーパーテスト)</p>

## (6) 展開例 第5時 「こんなときは、どうすればいいの」

<観点別のねらい>

- 今までに自分が体験したけがについて、自分なりにどのような手当をしてきたのか、振り返ることができるようにする。(関心・意欲・態度)
- けがの場所や症状に応じた簡単なけがの手当を確かめることができるようにする。(思考・判断)
- 簡単なけがの手当の意義や方法について理解できるようにする。(知識・理解)

時間	学 習 活 動
7分	<p>1 けがの手当について考える。&lt;持ち物&gt;タオル，ハンカチ，ちり紙，教科書，筆箱</p> <p>ころんですりむいてしまった時は、どうすればいいの。</p>  <ul style="list-style-type: none"> <li>• 何もしなくて平気だよ。 →治らない。</li> <li>• 包帯を巻けばいいんだよ。 →膿んできた。</li> <li>• 保健室に行きなよ。</li> <li>• すり傷の時には、まずよく水で洗うんだよ。</li> </ul> <p>*行動選択する。</p>
3分	<p>2 けがの経験を話し合い，けがをしたときに配慮することを知る。</p> <p>今まで、けがをした後、どのようにしていましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• けがの種類と程度をきちんと確かめて手当する。</li> <li>• 近くの人に知らせる。</li> </ul>
10分	<p>3 すり傷，鼻出血，やけど，打撲の手当の仕方を知る。</p> <p>けがの手当の仕方を教わりましょう。</p> <p>(みんなの手当の仕方は正しかったかな?)</p>  <ul style="list-style-type: none"> <li>• 傷口を流水で洗い流す。</li> <li>• 水は強すぎないように。 (時間も考えて)</li> <li>• 傷口に直接水をあてないように。</li> <li>• 出血を押さえて止める</li> <li>• 患部を冷やす。</li> </ul> <p>*程度を確かめる。</p>



TTによる実習によって、学習活動を工夫しています。評価はTTのチームとしての長所を生かしたものとなっています。

## 教師の支援・評価

- 日常よくみられるけがの事例を、教師がけがをした（心の様子は「パニック」）という設定の寸劇をみせ、どのような手当をするか考えさせる。思考・判断を評価することもできる。
- 行動選択させた場合には、それぞれの人数を把握しておき、指導に生かす。
- たとえ小さなけがでも、そのままにしておくと、あとでけががなかなか治らない例をあげ、手当の大切さに気付くことができるように助言する。
- 子どもたちからあがってこなかった例については、教師が補足する。

### 関心・意欲・態度の評価（学習活動2）

**評価規準** 今までに自分が体験したけがについて、自分なりに、どのような手当をしてきたのか、振り返ろうとしている。（ア-④）

#### 【発言の様子やワークシートから見た十分満足できる状況の例】

- ◎ 自分の体験をもとにして、けがの手当の仕方を進んで説明している。
- ◎ 今までに自分が体験したけがのことを振り返り、自分なりにどのような手当をしてきたのか考え、理由も加えてワークシートに書き込んでいる。

#### 【発言の様子やワークシートから見た努力を要する状況の例と具体的な支援例】

- △ けがの体験は思い出すが、どんな手当をしたか思い出せずにいる。
- 最近の例をもとに、そのときの状況を詳しく思い出させ、どのような行動をしたのか考えるよう助言する。また、保健委員会や、保健係としての活動で実践してきたことを教えてもらい、一緒に考えられるようにする。

- 養護教諭にも、子どもの発言の中にあつた手当のポイントについて補足説明してもらおう。知識として間違っているものは、きちんと指摘し訂正する。
- 担任は、けがの手当を実際にやって見せ、養護教諭がポイントを押さえる。その際、手当の方法だけではなく、なぜそうするのか理由も伝える。
- 担任は、子どもの疑問や理解できていないと思われる内容に配慮しながら、ていねいに説明を加え、確認させる。知識・理解を評価することもできる。
- 「この方法でよかったかな」と思考・判断での評価も考えられる。

時間	学 習 活 動
20分	<p>4 けがの手当を実習する。</p> <p>手当の仕方を練習してみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>グループで相互評価しながら実習する。</li> </ul> <div style="display: flex; flex-wrap: wrap;"> <div style="width: 50%;">  <p>&lt;すり傷&gt; けがをした部分についている汚れを水で洗い流している。 「水の量は大丈夫かな？」</p> </div> <div style="width: 50%;">  <p>&lt;やけど&gt; 流水を直接傷口にかけないようにして、冷やしている。</p> </div> <div style="width: 50%;">  <p>&lt;打撲&gt; 水や水などで、痛みのある部分を十分冷やしている。 「どれくらいの時間、冷やすといいのかな？」 (皮膚感覚)</p> </div> <div style="width: 50%;">  <p>&lt;鼻出血&gt; 鼻の付け根の部分を押さえ、ややうつむきかげんで静かに出血が止まるのを待っている。 「押さえる強さは？」</p> </div> </div>
5分	<p>5 まとめをする。</p> <p>今日の学習で分かったことは何ですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>簡単なけがなら、自分で進んで手当を試みる。(自分でできるけがの手当)</li> <li>無理であれば大人に知らせ、手当をしてもらう。</li> <li>勝手な判断はしてはいけない。(程度の判断)</li> <li>必ず大人に知らせること。 <ul style="list-style-type: none"> <li>*繰り返し手当の練習をしておくことが大切。</li> <li>*分からないことは、〇〇先生(養護教諭)に聞く。</li> <li>*けがの程度の判断をする。</li> </ul> </li> </ul>

## 教師の支援・評価

- けがの場所を確かめながら、正しい方法やしてはいけないことを踏まえて、学習カードを用いて、相互チェックできるよう指示する。(バディーを組ませる。) 友だちの手当の仕方を十分観察させる。
- 子どもの思考をうながすような発問を投げかけながら、机間指導する。
- 養護教諭にも入ってもらい、個々の子どもたちの実習の様子を見て、チェックしてもらう。(児童名簿を小さくしたメモ帳を身に付けて行う。)  
\*一人一人の評価、高まりをどう見るのか。
- 最初に行きたい場所ごとにグループを決め、5分ずつ区切って移動する。(だいたい同じぐらいの人数になるよう配慮する。)
- 配慮事項を大きなカードにし、各コーナーに掲示しておく。

### 思考・判断の評価 (学習活動4)

**評価規準** けがの場所や症状に応じた簡単なけがの手当を確かめることができる。(イ-④)

#### 【活動の観察から見た十分満足できる状況の例】

- ◎ 友達の考えのよさを見つけたり、自分の生活に当てはめたりすることができる。
- ◎ 友達のよさに気づきながら、正しい方法で手当をしている。
- ◎ 友達にアドバイスしている。

#### 【活動の観察から見た努力を要する状況の例と具体的な支援例】

- △ けがの場所を確かめずに手当をしている。
- 正しい方法やしてはいけないことを、けがの手当の仕方を確かめながら手当ができるよう助言する。

- 「こんな場合はどうするの?」という質問コーナーを設け、養護教諭にも答えていただく。
- 繰り返し練習しておくことが大切であることを伝える。

### 知識・理解の評価 (学習活動5)

**評価規準** 簡単なけがの手当の意義や方法について知っている。(ウ-③)

#### 【発表の様子やワークシートから見た十分満足できる状況の例】

- ◎ 簡単なけがの手当の意義や方法について知っていて、説明している。

#### 【発表の様子やワークシートから見た努力を要する状況の例と具体的な支援例】

- △ 手当の大切さがなんとなく分かり、方法もありそうだと思っている。
- けがをほおっておいた体験を思い出させ、すぐに治すよさに気付かせる。

ワークシート5

## けがの手当

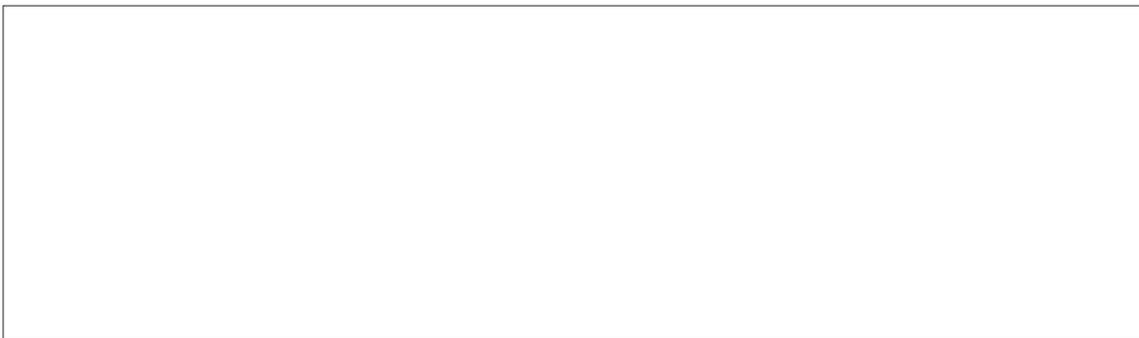
5年組 名前 ( )

1 今までに、どんなけがをしたことがありますか。

(1) けがの種類 ( )

(2) 体のどこをけがしましたか。( )

(3) どのような手当をしましたか。絵でも言葉でもよいです。



(4) 手当をした後は、どうでしたか。

2 どうしてすぐに手当をする必要があるのでしょうか。

3 これからは、もし、けがをしたときには、どのように手当をしたらよいのでしょうか。

4 「けがの手当」で、わかったことや、難しかったこと、調べてみたいことを書きましょう。

5 「けがの防止」の学習をふりかえって、わかったことや感想を書きましょう。

<ワークシート5> 関心・意欲・態度の評価（学習活動2）  
思考・判断の評価（学習活動2）  
知識・理解の評価（学習活動5）

ワークシート5

### けがの手当

5年 組 名前

1 今までに、どんなけがをしたことがありますか。

(1) けがの種類 ( )

(2) 体のどこをけがしましたか。 )

(3) どのような手当をしましたか。絵でも言葉でもよいです

(4) 手当をした後は、どうでしたか。

2 どうしてすぐに手当をする必要があるのでしょうか

3 これからは もし、けがをしたときには、どのように手当したらよいのでしょうか。

4 「けがの手当」で、わかったことや、難しかったこと 調べてみたいことを書きましょう

5 「けがの防止」の学習をふりかえって、わかったことや感想を書きましょう

**設問1**  
今までに自分が体験したけがについて、自分なりにどのような手当をしてきたのか、振り返ろうとしている子は、関心・意欲・態度面で、十分満足できる状況と判断できる。

手当の必要性について、自分の考えを明確にする。そのままではなかなか治らず、またひどくなることも考えられるようにする。

単元全体を振り返って、知識・理解をみることができる。また、これからの生活において実践しようとする事も分かる。

資料2 相互評価カード

相互評価カード (◎青, ○黄色, △赤)

上手にけがの手当ができたかな

さんへ

より

- 1 正しい方法で手当ができる。 すりきず ( )  
やけど ( )  
打ぼく ( )  
はなち ( )

\*その他にもやってみたものがあれば書きましょう。

相互評価カード (◎青 ○黄色, △赤)

上手にけがの手当ができたかな

さんへ

- 1 正しい方法で手当ができる。 すりきず ( )  
やけど ( )  
打ぼく ( )  
はなち ( )

\*その他にもやってみたものがあれば書きましょう

手当の実習の時にペアを決め、お互いに見合う。相手の手当の仕方をよく見る。

より

友達に自分の手当の仕方が正確にできているかを見てもらい、チェックする。お互いにポイントを押さえた実習ができる。

突き指、捻挫など、似たような手当のできるものもあるので、教科書の例を見たり、養護教諭にも手伝ってもらいながら、実習することができる。

## けがの防止

5年組 ( )

- 1 次の各文の ( ) に合うことばを下の点線の中から選び、文章を正しく完成させましょう。  
(同じ言葉を二度以上使うこともあります) 【知識・理解】

(1) けがや事故は、( ) と周りの ( ) が原因で起こります。  
また、人の行動は、その人の ( ) や体の調子と関係しています。

人の行動 心の状態 きまり 安全 服装 環境 安全点検 危険

(1) けがを防ぐためには、( ) を守るとともに、( ) に早く気づき、正しい判断をして、安全な行動をとることです。また ( ) を安全に整えておくこともたいせつです。

- 2 友達が、ころんで「すりきず」ができてしまいました。どのように手当をするとよいのでしょうか。友達にアドバイスしましょう。 【思考・判断】

あのね。

- 3 けがの手当について、正しいものには○を、正しくないものには×を ( ) に書き入れましょう。 【知識・理解】

- (1) ( ) けが人が出たときは、周囲のようすや、けがの種類・程度などを落ち着いて観察し、必要に応じて、近くのおとなや救急機関に知らせることがたいせつである。
- (2) ( ) 頭を強く打ったときは、急いで医師のところへ歩いていく。
- (3) ( ) 出血したときは、近くに水道があれば、自分でできず口を洗い流してから保健室に行く。
- (4) ( ) 血液には直接さわらないようにし、体や服に血液がついたら、すぐに水で洗い流す。
- (5) ( ) かさぶたは、はがさないほうがよい。
- (6) ( ) やけどした部分が衣類にかくれているときは、衣服はぬがないでそのまま冷やす。
- (7) ( ) 鼻血は、首の後ろをたたくと早く止まる。
- (8) ( ) つき指は、引っ張ると早く治る。

資料4 座席表 (理科室)

第5時「けがの手当」

具体的な評価規準 (関心・意欲・態度)

- 今までに自分が体験したけがについて、自分なりに、どのような手当をしてきたのか、振り返ろうとしている。
- (◎ 今まで自分が体験したけがについて、自分なりに、どのような手当をしてきたのか振り返り、簡単なけがの手当の意義や方法について、進んで発言しようとしている。)
- (△ 友だちの意見に耳を貸さず、けがの手当の仕方について、自分の意見を言うだけの状態にとどまっている。)

5年組 月 日 学習活動①②③⑤

今までのけがについての経験を思い出そうとしないで、なんとなく聞いている。

今までの経験をもとに考えている。

12 △		1 ○	18 ②◎	12 ○	
28 ①②◎	14 ②◎	27 ○	17 ①②◎	10 ○	3 ○
26 ①②◎	4 ①②◎	23 ○	22 ②◎	15 ○	13 ○
7 ○	6 ②◎	24 ○	8 ◎	2 ○	19 ○
16 ○	9 ○	11 ①②◎	21 ○	20 ①②◎	5 △

自分がけがをしたときの手当の方法について、細かく思い出しながら進んで発言していた。

すり傷のけがの程度についてまで考えた発言をしていた。

今までのけがの経験を思い出そうとするが、どのように手当をしたのか覚えていない。また、「治ればいい」という思いだけである。

黒板

資料5 行動チェック表（理科室）

第5時「けがの手当」

具体的な評価規準（思考・判断）

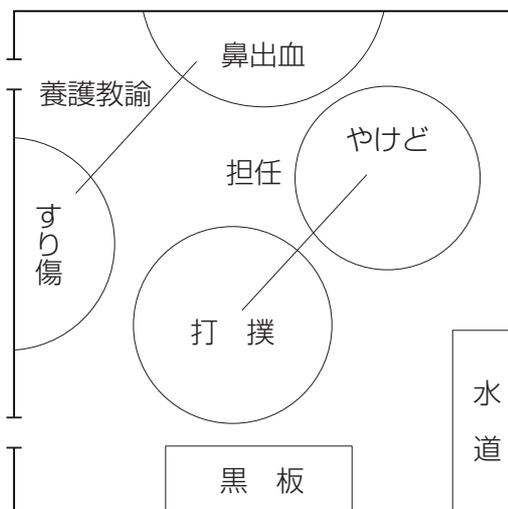
- けがの場所や症状に応じた簡単なけがの手当の仕方を確かめることができる。
- (◎ 「十分満足できる」状況の例：けがの場所や症状に応じた様々なけがの手当の仕方を、これまでの経験を生かしながら、確かめることができる。)
- (△ 「努力を要する」状況の例：けがの場所や症状を考えずに、適当に手当をしている状態にとどまっている。)

5年組 月 日 学習活動④

(児童名)

(チェック欄) ……◎は、Aの状況  
△は、Cの状況

1		15		
2		16		
3		17		
4		18		◎
5		19		
6		20		◎
7	△	21		◎
8	◎	22		
9	◎	23		
10		24		
11		25		
12	◎	26		
13		27		
14		28		◎



注意すべき点をおさえずに、自分なりの方法で鼻出血の手当をしている。「上を向かずに、鼻の根本をしっかり押さえよう。」と、言って養護教諭が実際にやって見せた。

今まで学習した手当の方法を十分生かしながら、実習をしていた。どこをどのようなけがをしたのかを、はっきりさせながら手当をしていた。また、友だちが手当の方法を間違っていると、進んで教えていた。

\*実習の場面での評価は、絶えず子どもたちが動いているので、養護教諭と2つの場ずつ分担して子どもの実態を把握した。

## (7) 実践を終えて

### ① 授業者のコメント

今までにどんなけがをしたことがあるのかについて一緒に考え、これまでに体験した手当について共通理解できてよかった。その際、実際にどうやったのか、その場で取り上げてみれば、このあとのすりきず、はなち、やけど、打撲の手当の仕方の説明や実習に無理なく入っていったと思う。

手当の必要性については、ほとんどの子どもが理解でき、実習への意欲が高まった。養護教諭が専門的な立場から手当の仕方について説明したり、2人の教師が協力して、実際に手当をしている場面を見せることは効果的だった。また、保健委員会で作成したけがの手当のイラストを用いたのは、日頃子どもたちが目にしていたので、具体的なイメージ作りに役立った。

ただし、相互評価のカードの書き方については実習に入る前に説明したが、養護教諭と協力して実際にやってみせる工夫があれば、子どもたちはもっとやりやすかったと思う。

実習では、子どもたちは、それぞれの場で手当の実習を熱心にやっていたが、その姿を養護教諭とともに見取ることは、かなり難しく、チェック表を用いても5～6人程度しか見取ることができなかった。

より簡易なチェック表を作成することと、養護教諭とのTTにおいてどのように評価していくとさらに具体的な姿が見取れるのか検討していく必要がある。しかし、単元を振り返っての感想に、けがを防ぐ努力の大切さと、いざというときの対応の仕方を学ぶことができてよかったという子どもが多かった。子どもたちは、実際にやってみることによって、その方法を理解し、体で覚えることができたと思う。

### ② 観察者のコメント

実習は、技術や技能を体験させるための活動です。しかし、授業の前半で学んだことは、実際にやってみると、予想外のことが生じます。やってみて、分からないことが分かったり、実感できたりします。それが実習の重要なねらいですので、必ず全員に体験させることが不可欠なことですし、仲間の手当を観察することも大変有効なことなのです。そのような実習によって、よりきめ細やかな支援ができる点でTTによる指導は有効です。そして、支援した内容は子どもの置かれている状況を反映していますから、評価に生かすことができます。それぞれ得意な専門領域をもっている場合、多様な支援が期待できますから、多面的な評価を可能にします。教師が支援したことを記録しておけば、評価する際の重要な資料になります。したがって、相互評価カードやワークシートなど、学習者の状況に応じて改変し工夫して使用することによって、一層、指導と評価を一体化させた学習活動を作り上げることができるでしょう。

(8) 単元の観点別学習状況の評価と評定への総括

ア 観点別評価簿（5年 1学期 けがの防止）

児童名	評価の観点		第1時			第2時			第3時			第4時			第5時				保健観点別	運動1学期	1学期観点
			①	②	③	①	②	③	①	②	③	①	②	③	①	②	③	④			
1	ア	関意態	◎	-	-	○	○	-	-	◎	◎	-	-	-	-	-	-	◎	A	B	B
	イ	思・判	◎	-	-	◎	◎	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	○	A	A	A
		技能	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	B	B
	ウ	知・理	◎	-	-	-	-	-	-	△	-	-	-	-	-	-	○	-	B	-	B
2	ア	関意態	◎	-	-	○	○	-	-	○	◎	-	-	-	-	-	-	○	B	A	A
	イ	思・判	○	-	-	◎	△	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	○	B	C	C
		技能	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	B	B
	ウ	知・理	△	-	-	-	-	-	-	△	-	-	-	-	-	-	△	-	C	-	C
3	ア	関意態	◎	-	-	○	○	-	-	○	△	-	-	-	-	-	-	○	B	B	B
	イ	思・判	○	-	-	△	○	-	-	-	-	-	-	△	-	-	-	○	B	B	B
		技能	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	A	A
	ウ	知・理	△	-	-	-	-	-	-	△	-	-	-	-	-	-	△	-	C	-	C

イ 学習の内容ごとに、◎「十分満足できる状況」、○「おおむね満足できる状況」、△「努力を要する状況」の3段階で評価する。

ウ 保健領域の単元の観点別評価は、

A「十分満足できる状況」……………「◎が過半数の場合」とする。ただし、「△がある場合は◎とセットにして○2つ分とし、それでも◎が過半数となった場合」とする。

C「努力を要する状況」……………「△が過半数の場合」とする。ただし、「◎がある場合は、△とセットにして、○2つ分とし、それでも△が過半数となった場合」とする。

B「おおむね満足できる状況」……………上記「A」「C」以外の場合とする。

エ 保健学習を実施した学期の観点別評価については、運動領域と保健領域の評価を合わせて、学期の総括をし、「関心・意欲・態度」「思考・判断」「知識・理解」それぞれの観点に、保健学習の状況を反映させるようにする。この際、保健学習の評価を「知識・理解」の観点だけに限定したり、3観点を合わせて「知識・理解」の観点のみに反映させたりすることのないように留意する。

オ 保健領域を実施した学期は、保健領域（20%）と運動領域（80%）の評価配分とする。

<保健領域と運動領域の評価早見表>

保健領域の観点別評価	運動領域の観点別評価	学期の観点別評価
A	A	A
A	B	B
A	C	B又はC
B	A	A
B	B	B
B	C	C
C	A	A又はB
C	B	B
C	C	C

カ 各学期の観点別評価A・B・Cを得点化し（A…3点，B…2点，C…1点），評定に結びつける。

キ 単元における観点別評価の総括や評定への総括については，この他にも様々な方法があり，各学校において工夫されたい。

ク 保健領域の技能的な要素（手当の実習等）は，「思考・判断」に含めて考えている。

ケ 運動領域の知識・理解的な要素（体づくり運動等）は，「技能」に含めて考えている。

## 6年生の展開例

### 3. 単元名「病気の予防」(8時間)

#### (1) 単元の目標

病気の予防について理解できるようにする。

- 病気の起こり方と予防の方法について関心をもち、進んで課題を見つけようとしたり、意欲的に課題解決に取り組んだりすることができるようにする。(関心・意欲・態度)
- 病気の起こり方や予防の方法について、課題を設定し、解決の方法を考えたり、判断したりできるようにする。(思考・判断)
- 病気の起こり方や予防の方法について、実践的に理解し、自分の生活に役立つ知識を身に付けることができるようにする。(知識・理解)

前半は、病気の予防について課題解決的な学習、後半は喫煙・飲酒・薬物乱用防止について一斉学習やブレインストーミング等の指導方法を工夫しました。



#### (2) 単元計画

■ は本時を示す

	第1時 ~ 第5時	第6時	第7時	第8時
	病気の予防	喫煙・飲酒・薬物乱用の防止		
主な学習内容と方法	病気について、かぜなど身近な例をもとにして課題をもち、解決の方法を考えながら課題を追究し、病気の起こり方や予防の方法を理解する。 ・インフルエンザ      ・心臓病 ・がん ・エイズ ・むし歯 ・結核 ・脳卒中 ・歯周病 など	喫煙には、すぐに現れる影響と長い間続けると病気にかかりやすくなる影響があることについて理解し、自分の健康に対する意識を高め、健康によい生活行動を自ら実践していこうとする態度を養う。	飲酒にはすぐに現れる影響と長い間続けると病気にかかりやすくなる影響があることについて理解し、自分の健康に対する意識を高め、健康によい生活行動を自ら実践していこうとする態度を養う。	シンナーなどの薬物の心身への影響や、乱用による深刻な影響について理解し、自分の健康に対する意識を高め、健康によい生活行動を自ら実践していこうとする態度を養う。
	課題解決的な学習	一斉学習	一斉学習	ブレインストーミング等
評価方法等	○ 話し合いの観察 ○ 学習カード ○ 発表資料 ○ 振り返りカード	○ 観察 ○ 振り返りカード	○ 観察 ○ ワークシート	○ 観察 ○ 標語 ○ 振り返りカード

### (3) 事例の特徴

本事例では、病気の予防の学習を通して、めざす子どもの姿を次のように考えた。

身の回りには様々な病気があり、身近な病気を取り上げて病原体・体の抵抗力・生活行動・環境がかかわりあって病気が起こることを理解し、進んで病気について調べようと意欲をもつ姿。病原体が主な要因となって起こる病気の予防には、病原体を体に入れないことや、病原体に対する体の抵抗力を高める必要があることを理解し、自ら取り上げた病気について、その起こり方と予防の仕方を自らの生活に役立てようとする気持ちをもつ姿。生活習慣病など生活行動が主な要因となって起こる病気の予防には、栄養の偏りのない食事や口腔の衛生など、望ましい生活習慣を身につけることが必要であることを理解し、自らの生活を見直しながら、現在や将来にわたってよりよく改善していこうとする意欲をもつ姿。喫煙・飲酒・薬物乱用などの行為は健康を損なうことをしっかり認識し、自らの健康に対する意識を高めながら、健康によい行動を自ら実践していこうとする姿。

本単元では、このような姿に学びが進んだとき、目標としている「病気の予防についての理解」が実現できたと考える。

上記のことをふまえながら、単元を構成するにあたっては特に以下の2点を大切にした。

単元の前半では学習意欲が高まるよう、最も身近な病気である「かぜ」を取り上げ、病気の症状・原因・予防の方法という調べ学習の内容を一般化する。課題解決的な学習の進め方に対する見通しをつけた上で、第2時から第5時までを、身近な病気をテーマに個々の課題解決的な学習を行う。一人一人の学習の成果については、異なる病気を調べた子同士でグループをつくり、発表し合い、病原体が主な要因となって起こる病気と生活行動が主な要因となって起こる病気についての予防の方法に対する学習を広げる。一人一人の思いや考え、意見などを大切にするために、喫煙・飲酒・薬物乱用の害などを実感できるリアルな資料の提示に心がけたり、ブレインストーミングなど学習指導の方法を工夫したりしながら、自分の健康に対する意識を高め、実践的な態度を養う。

学習を進めるにあたっては、単元全体を見通して指導と評価の計画を立て、一人一人に豊かな学びを保障しながら病気の予防に対する理解が深まるよう努めた。特に、「健康・安全への関心・意欲・態度」、「健康・安全についての思考・判断」、「健康・安全についての知識・理解」の3観点から、教師による発言観察だけでなく、課題解決的な学習を進める上での資料収集の様子や発表資料の用意の様子、振り返りカードや学習カードの活用など、より多面的に評価活動を進めていくことにした。学習カードに書かれている言葉の吟味、言葉には表れない表情の見とりなど、より多角的に評価の方法を工夫していくことが、一人一人に確かな学びを保障していく事につながるのであろうと考える。

(4) 単元の評価規準（おおむね満足できる状況（B）と判断できる子どもの姿の具体例）

	ア 健康・安全への 関心・意欲・態度	イ 健康・安全についての 思考・判断	ウ 健康・安全についての 知識・理解
単元 の 評 価 規 準	病気の起こり方と予防の方法について関心をもち、進んで課題を見つけようとしたり、意欲的に課題解決に取り組んだりしようとしている。	病気の起こり方や予防の方法について、課題を設定し、解決の方法を考えたり、判断したりしている。	病気の起こり方や予防の方法について、実践的に理解し、自分の生活に役立つ知識を身に付けている。
学習活動における 具体の 評価 規準	<p>① 病気の起こり方や予防の方法について、自分や身近な人の経験した病気の例などをもとに、課題を見つけようとしている。</p> <p>② 病気の起こり方や予防の方法について、家庭で話を聞いてきたり、学校で教科書などの資料を読んだり、調べたりして、課題について調べようとしている。</p> <p>③ 病気の起こり方や予防の方法について、友達の意見を聞いたり、調べたことや考えたことを発表したりしようとしている。</p>	<p>① 病気の起こり方や予防の方法について、自分の経験や友達、家族など身近な人々の生活などを見つめ、学習の課題を見つけることができる。</p> <p>② 病気の起こり方や予防の方法について、身近な人々に聞いたり、資料をもとに予想したり、関係を見ついたりしながら課題の解決の方法を考えることができる。</p> <p>③ 病気の起こり方や予防の方法について学習したことをもとに、自分の生活を見直すことができる。</p>	<p>① 病気は、病原体、体の抵抗力、生活行動、環境がかわり合って起こることを知っている。</p> <p>② 病原体が主な要因となって起こる病気とその予防の仕方について知っている。</p> <p>③ 生活習慣が主な要因となって起こる病気や、その予防の仕方、喫煙、飲酒、薬物乱用の健康への影響について知っている。</p>

「十分満足できる」状況を実現していると判断した子どもの姿の具体例

ア 健康・安全への 関心・意欲・態度	イ 健康・安全についての 思考・判断	ウ 健康・安全についての 知識・理解
<p>① 病気の起こり方や予防の方法について、自分や身近な人の経験した病気の例などをもとに、進んで課題を見つけようとしている。</p> <p>② 病気の起こり方や予防の方法について、自ら資料を用意したり、あらかじめ話を聞いたりしながら、事前の学習の準備を積極的に行っている。</p> <p>③ 病気の起こり方や予防の方法について、調べた事や考えた事を発表したり、友達の意見を聞いたりしながら、自分の学習に生かそうとしている。</p>	<p>① 病気の起こり方や予防の方法について、経験や友達、家族など身近な人々の生活などを振り返り、様々な視点から多面的に問題点を見つけることができる。</p> <p>② 病気の起こり方や予防の方法について、人に聞いたり、資料をもとに予想したり、関係を見つけたりして課題の解決の方法を考えることができる。</p> <p>③ 病気の起こり方や予防の方法について、学習したことを自分の生活に当てはめて考えることができる。</p>	<p>① 病気は、病原体、体の抵抗力、生活行動、環境がかかわり合って起こることを説明することができる。</p> <p>② 病原体が主な要因となって起こる病気とその予防の仕方について、具体的に説明することができる。</p> <p>③ 生活習慣が主な要因となって起こる病気や、その予防の仕方、喫煙、飲酒、薬物乱用の健康への影響について具体的に説明することができる。</p>

「努力を要する」状況と判断した子どもの姿の具体例

ア 健康・安全への 関心・意欲・態度	イ 健康・安全についての 思考・判断	ウ 健康・安全についての 知識・理解
<p>① 病気の起こり方や予防の方法について、自分の経験を振り返るだけの状況に留まっている。</p> <p>② 病気の起こり方や予防の方法について、教師からの学習の準備の仕方の指示を待っている。</p> <p>③ 病気とその起こり方や予防の方法についての考えが滞り、友達の発表を聞くだけに留まっている。</p>	<p>① 病気の起こり方や予防の方法について、問題点を見つけようとする状況をあきらめている状況に留まっている。</p> <p>② 病気の起こり方や予防の方法について、学び方や課題の解決の方法についての教師からの指示を待っている。</p> <p>③ 病気の起こり方や予防の方法について学習したことを、その時の学習に留め、自分の生活にいかすために教師から直接的な助言を受ける必要がある。</p>	<p>① 病気の起こり方や予防の方法について、体験的に知っている状態に留まっている。</p> <p>② 病原体が主な要因となって起こる病気とその予防の仕方について、原因を知っている状態に留まっている。</p> <p>③ 生活習慣が主な要因となって起こる病気や、その予防の仕方、喫煙、飲酒、薬物乱用の健康への影響について良くないことだという認識に留まっている。</p>

## (5) 指導と評価の計画

時間	ねらい・学習活動	単元の評価規準との関連	評価方法等
1	<p>○ ねらい</p> <p>身近な病気としてかぜを取り上げ，病原体・体の抵抗力・生活行動・環境がかかわって病気が起こることを理解できるようにし，病気の原因とその予防についての課題を見つけようとするができる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 身近な病気である「かぜ」について知っていることを発表する。</li> <li>2 かぜについての正しい情報を調べる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・症状→原因→予防法</li> </ul> </li> <li>3 かぜの原因と予防の仕方を考える。</li> <li>4 学習のまとめをする。</li> </ol>	<p>ア－①</p> <p>ア－②</p> <p>ウ－①</p>	<p>話し合いの観察</p> <p>行動観察</p> <p>学習カード</p>
2 5	<p>○ ねらい</p> <p>病気について，身近な例をもとにしながら課題をもち，解決の方法を考えながら課題を追究し，病気の起こり方や予防の方法を理解できるようにする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 自分の知っている病気について発表する。</li> <li>2 自分が調べてみたい病気を決め，その理由を発表する。</li> <li>3 自分の決めた病気について，その原因を調べ予防の方法を考える。</li> <li>4 病原体が主な要因となって起こる病気と生活行動が主な要因となって起こる病気の両方が含まれるようグループを編成し，学習の成果を発表したり，友達の発表を聞いたりしながら，病気に対する理解を深める。</li> <li>5 今日からの自分の生活に生かせることを考え，実践化を図る。</li> </ol>	<p>ア－①</p> <p>イ－①</p> <p>ア－②</p> <p>イ－②</p> <p>ア－③</p> <p>ウ－②</p> <p>イ－③</p>	<p>発言の様子</p> <p>学習カード</p> <p>発言の様子</p> <p>資料の用意の様子</p> <p>学習カード</p> <p>発表の資料</p> <p>振り返りカード</p>

時間	ねらい・学習活動	単元の評価規準との関連	評価方法等
6	<p>○ ねらい</p> <p>飲酒による心身への影響や、すぐに現れる影響、長い間続けると現れる影響に分けて理解できるようにするとともに、小学校期の飲酒が特に危険である理由を説明することができるようにする。また、飲酒を勧められた時の自分なりの断り方を考えることができるようにする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 「お酒」から連想するものを発表する。</li> <li>2 飲酒の害について資料をもとに話し合う。</li> <li>3 飲酒を勧められたときの自分の行動について考える。</li> <li>4 学習のまとめをする。</li> </ol>	<p>ア－①</p> <p>イ－②</p> <p>ウ－③</p>	<p>発言の様子</p> <p>話し合いの観察</p> <p>振り返りカード</p>
7	<p>○ ねらい</p> <p>喫煙による心身への、すぐに現れる影響、長い間続けると現れる影響について分けて理解できるようにするとともに、小学校期の喫煙が特に危険である理由を説明することができるようにする。また、喫煙を勧められた時の自分なりの断り方を考えることができるようにする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 喫煙により傷んだ臓器の写真を見ながら、感想を出し合う。</li> <li>2 たばこについて知っていることを発表する。</li> <li>3 喫煙の害を知る。</li> <li>4 喫煙を勧められたときの自分の行動について考える。</li> <li>5 学習のまとめをする。</li> </ol>	<p>ア－①</p> <p>イ－②</p> <p>ウ－③</p>	<p>発言の様子</p> <p>聞いている様子</p> <p>話し合いの観察</p> <p>学習カード</p>

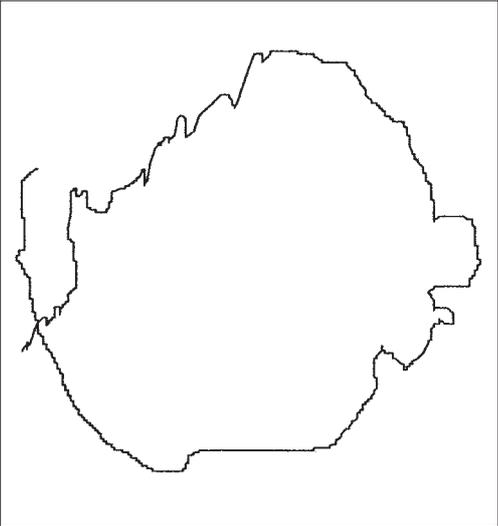
時間	ねらい・学習活動	単元の評価規準との関連	評価方法等
8	<p>○ ねらい</p> <p>シンナーなどの薬物の心身への影響や、乱用による深刻な影響について理解し、自分の健康に対する意識を高め、学習したことを自らの生活に当てはめて考えることができるようにする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 シンナー乱用者の描いた絵を見ながらブレインストーミングを行う。</li> <li>2 シンナー乱用者の描いた絵をもとに、シンナー乱用による心身への影響について話し合う。</li> <li>3 シンナー乱用の害を知る。</li> <li>4 シンナーなどの薬物乱用に対する自分の思いを整理し、標語を作る。</li> <li>5 学習のまとめをする。</li> </ol>	<p>ア-③</p> <p>ウ-③</p> <p>イ-③</p>	<p>発言の様子 聞いている様子</p> <p>学習カード (P82参照)</p> <p>作った標語 (P78参照) 振り返りカード (P80参照)</p>



## (6) 展開例 第8時 「シンナー等有機溶剤乱用の害」

### <観点別のねらい>

- シンナーなどの薬物が心身に及ぼす影響について、友だちの考えを聞いたり、自分の考えを発表したりすることができるようにする。(関心・意欲・態度)
- 自分の健康に対する意識を高め、学習したことをもとに自分の生活を見直すことができるようにする。(思考・判断)
- シンナーなどの薬物乱用が心身に深刻な影響を及ぼすことを理解できるようにする。(知識・理解)

時間	学 習 活 動
7	<p>1 下の絵を見ながら、グループごとにブレインストーミングを行い、どのような人が描いた円なのか、できるだけたくさん考えを出し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>円を描くときに、どうしてもこのような円しか描くことができない人がいます。どんな人が描いたのでしょうか？</p> </div> <div style="display: flex; align-items: flex-start; margin-top: 20px;"> <div style="flex: 1;">  </div> <div style="flex: 2; margin-left: 20px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 赤ちゃんが描いた。</li> <li>• 右利きの人が左手で描いた。</li> <li>• 酔った人が描いたのかな。</li> <li>• 目が回っているときに描いた。</li> <li>• 口で描いたのかな。</li> <li>• 後ろ向きで描いた。</li> <li>• どこかおかしくなったのかなあ。</li> <li>• 脳がおかしくなっているのかもしれない。</li> </ul> </div> </div>
10	<p>2 シンナー乱用者が描いた円であることを知り、シンナーを乱用するとどうしてこのような円になってしまうのか話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• お酒やタバコみたいに、脳がおかしくなって手がふるえたんだらう。</li> <li>• シンナーのせいで目が回っちゃったんだ。</li> <li>• 脳から手や足に命令が行かなくなった。</li> <li>• 腕がしびれるんじゃない？</li> <li>• きっと力が入らないんだよ。</li> <li>• 自分では○だと思っている。</li> <li>• 脳が壊れたのかもしれない。</li> <li>• 脳に影響して円がわからなくなった。</li> <li>• 脳がおかしくなって、混乱している。</li> <li>• 紙が見えなくなったのかも。</li> <li>• 体がいうことをきかなくなった。</li> <li>• 集中できなくなった。</li> <li>• 体と心が一致しなくなった。</li> </ul>

子どもの考えを引き出すためにブレインストーミングを行ったり、視聴覚教材を活用したりした展開を工夫しています。評価は子どもの様子の観察や振り返りカードを併用しています。



## 教師の支援・評価

- 導入の際にまず紙を配り、児童にフリーハンドで「円を描いてごらん」となげかけ、自分の描いた円と比べることにより問題意識を掘り起こす。
- この際には、円が描けない児童がいないかどうか事前に把握しておく。
- 様々な意見が出せるよう、自由な雰囲気を進めたい。
- 考えが出つくした後で、「何か体の中や脳がおかしくなっているのでは？」という気づきを大切にしながら、次の活動につなげ、この円はシンナー乱用者が描いた円であることを説明する。
- 全体に、ブレインストーミングを行う際の留意点について説明する。

### ブレインストーミングを行う際の留意点

- 1 できるだけたくさん考えを出すこと。
- 2 正解・不正解は関係ないこと。
- 3 出されたアイデアから連想してもよいこと。
- 4 出された考えに対して批判やコメントはしないこと。

### 関心・意欲・態度の評価（学習活動1）＜ブレインストーミング＞

#### 評価規準

提示した円がどんな人によって描かれた円かについて、友達の意見を聞いたり、考えたことを発表したりしようとしている。（ア-③）

#### 【自ら考えたり、友達の発言を聞いたりしている時の「十分満足できる状況」例】

- ◎ 絵や友達の発言から、様々なアイデアを膨らませ活発に発言している。
- 考えのよさや話し合いにのぞむ姿勢のよさを認め、真剣な学習態度を称賛する。

#### 【自ら考えたり、友達の発言を聞いたりしている時の「努力を要する状況」例】

- △ 下手な丸だ、という程度の認識にとどまっている。
- 共に友達の意見を再確認しながら、何かがおかしいのではないだろうかということに目が向くよう導く。

- シンナーの正しい使い方（ペンキを薄めるなど）と乱用（繰り返し何度も間違った使い方をすること）の違いについて説明し用語の意味をおさえる。
- シンナーは脳に悪い影響を与えることを、薬物乱用により隙間ができた脳の写真を提示しながら説明する。
- 薬物乱用防止教育ビデオ「ストップ・ザ・薬物」～日本学校保健会～を視聴し、シンナーや覚せい剤の心身への害を知る。
- シンナー乱用の害を学習をした後に、他にも乱用される薬物として覚せい剤などがあることや、その乱用が法律で厳しく罰せられることを強調する。
- 薬物乱用の害は、単に児童の恐怖心をあおることの無いように留意するが、心身の健康を害する恐ろしさについては、事実として押さえておきたい。

時間	学 習 活 動
15	<p>3 シンナー乱用の害を知る。</p> <p>シンナーを乱用するとどうになってしまうのか、ビデオや写真を見ながら考えてみましょう。そして、わかったことを学習カードに整理してみましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 視力が下がる。</li> <li>• 内蔵が傷み、血を吐くこともある。</li> <li>• 幻覚が起こる。</li> <li>• 体の見えないところまで悪くなっている。</li> <li>• 体が壊れてしまう。</li> </ul> <p>☆ビデオや写真を活用しながら、よりリアルに害について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• わかったことを学習カードに整理する。</li> </ul>
10	<p>4 シンナーなどの薬物乱用に対する思いを整理し、標語をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 薬物乱用は命をちぢめます！</li> <li>• 近づくな！乱用薬物のそば気をつけろ。</li> </ul> <p>☆自分たちが薬物を乱用しないために役立つ標語を取り上げ、興味半分でも絶対だめであること押さえる。</p> <p>薬物を乱用すると、自分の体に恐ろしいことが起こります。自分の健康をよく考え、標語をつくってみましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 薬物乱用は命をちぢめます！</li> <li>• 近づくな！乱用薬物のそば気をつけろ！！</li> </ul>
3	<p>5 学習のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 振り返りカードに記入する。</li> </ul>  

知識・理解の評価（学習活動3）

**評価規準** シンナーや覚せい剤などの薬物乱用の健康への影響について知っている。  
（ウ-③）

【学習カードの内容から見た「十分満足できる状況」例】

◎ シンナーが心身に及ぼす影響について、自分の気持ちを交えながら表している。

【学習カードの内容から見た「努力を要する状況」例】

△ 薬物は怖い、だけの表記にとどまっている。

→ 写真やパネルなどの視覚に訴える資料を再度提示し、シンナーの害について改めて説明する。

△ 薬物の害は知っているものの、乱用について好奇心を示している。

→ 再度、はっきりとその害を知らせ、1度でも絶対に使用してはならないことや取り返しのつかない事態を招くことを説明する。

- 今後の薬物からの回避行動につながるよう、児童自らの言葉で表現できるようにしたい。
- 振り返りカードにまとめ、今後の行動へつながるようにする

思考・判断の評価（学習活動4）

**評価規準** 薬物乱用が健康に深刻な影響を及ぼすことについて学習したことをもとに、自分の生活を見直すことができる。（イ-③）

【児童の作った標語や振り返りカードから見た「十分満足できる状況」例】

◎ 学習したことを十分生かして、薬物を毅然として拒否する立場から自分の思いを表現している。

【児童の作った標語や振り返りカードから見た「努力を要する状況」例】

△ 友達の標語を見ているだけの状況にある。

→ 薬物は身近にあり、誰にでもふれる可能性があることを示唆し、興味半分、薬物の本当の怖さを知らないなど、考えられる要因のいくつかを個別に助言する。

→ どのような意見や考えも価値のあることを説明し、薬物は怖い物である、ということや近づいてはいけない、ということ再度伝える。

- 学習の最後に、薬物についての学習は中学校でも行うこと、薬物は脳に影響を与え、健康に深刻な害を及ぼすこと、などを再度補足説明しましょう！

# シンナーについて

名前 ( )

◇初めて知ったこと・疑問に思ったこと

①シンナーを乱用すると、どんな害があるのだろうか？

◇薬物乱用とあなたの健康について考え、自分たちが乱用しないために役立つ標語を作ってみよう！

(薬物の乱用は絶対しない宣言！

でもいいです。)

## 資料1-2 「知識・理解」の評価（学習活動3）子どもの様子・指導と評価

グループごとにブレインストーミングを行いながら脳の変化に気づき始めた子どもたちは、ビデオの視聴を通してシンナー乱用の心身への深刻な害を興味深く見つめていた。

シンナー乱用の害をカードにまとめる際には、

- 体の細胞をこわす。
- 呼吸が苦しくなる。
- 歯をむしばむ。
- 神経のコントロールができなくなる。
- 人としての機能がおかしくなる。
- 手足がしびれる。
- 幻覚があらわれる。
- 食道を傷める。
- 脳が縮む、悪い影響がある。

などの体に対する害がたくさん出されており、健康・安全への知識・理解の状況を評価することができた。

- 脳へ害があり、しても良いことといけないことの判断ができなくなるから、自分だけでなく他人も巻き込む事件になる。
- 体だけでなく心もおかしくなるので、人間としてとても危険。

など、シンナー乱用の心身への深刻な影響について具体的に書いていたり、自分の気持ちを交えながら書いていたりする場合には、知識・理解が「十分満足できる状況」を実現していると判断した。

また、「シンナーは体によくない」「シンナーは怖そう」などの言葉だけが書かれている場合には知識・理解が「努力を要する状況」にあると評価し、シンナーの乱用により脳の縮んだ写真や歯のいたんだ写真を見せるなど、直接視覚に訴える資料を提示しながら、心身への深刻な影響に考えが及ぶよう支援する必要がある。

## 資料1-3 「思考・判断」の評価（学習活動4）～子どもの様子・指導と評価

自分の健康に対する意識を高め、健康によい生活を自ら実践していこうとする態度をめざしてシンナーや覚せい剤などの薬物乱用に対する自分の気持ちや考えを標語に表すことにした。

実際には、「シンナーは心と体傷つくぞ、すすめられても近づかない」「シンナー乱用 死の一步」「細胞をこわしまくる 大嫌い」「一生は一度しかないからやりません 薬物乱用絶対に」「おそろしいその1回で壊れちゃう」などの標語が生まれた。いずれの標語も、本時の学習からシンナーなどの薬物の乱用を毅然とした立場から拒否しようとする思いが強く表現されている。また、なかなか筆が進まず、友だちの標語を見ているだけの子どもには、再度シンナー乱用者の描いた円を見せ、思うように描けなくなってしまう乱用の害から、自分の健康を実現するためのはっきりとした薬物乱用の拒否の姿勢がもてるよう支援する必要がある。

健康的な生活行動や習慣を身に付け、生涯にわたって健康な生活を送る資質や能力をより豊かに育てるために、本時の学習から、子どもたちが自分らしく考えた標語をもとに、さらにポスターをつくったり、新聞をつくったりするなどの発展的な学習も考えられる。

# 振り返りカード

わかったこと・思ったこと・感じたこと・まだよく分からないこと・もっと知りたくなったこと、など今日の学習を振り返ってみましょう。

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

## 資料2-2 「思考・判断」の評価（学習活動5）～子どもの様子・指導と評価

学習内容を整理するために「わかったこと・感じたこと」、自らの健康的な生活を実現するための発展的な学習につなげるために「もっと知りたくなったこと」などを内容として振り返りカードを使用した。ほとんどの子どもが集中しながら記述を進めていた。

- 薬物の乱用をしたら命がボロボロだ！と思っています。お店でも絶対に買ったり売ったりしない。何か不幸を分けているみたいでいやだ。
- シンナー乱用の害を真剣に見ていたけれど、「自分がもし…」と思うととても怖かった。何がなんでも自分を大事にしたい。
- 薬物の乱用がよくないものだとはなんとなく知っていたけれど、今日どのくらい怖いのか知った。自分を自分じゃなくする薬物の乱用は絶対にやりたくない。

など、薬物乱用の心身への深刻な影響を知った上で、現在や今後の自分の生活を見つめ、自らの意志や行動を決定している内容が書かれている場合には、思考・判断が「十分満足できる」状況を実現していると判断した。自らの行動を明確に決定していることを認め、今後の生活に生かせるよう励ました。

また、「薬物の乱用は怖いけれど、勧められたら断れるかわからない。」などと拒否の姿勢に曖昧な反応が見られた場合には思考・判断が「努力を要する」状況にあると判断し、個別に一つ一つ学習を振り返りながら薬物乱用の心身への深刻な影響について再度強調する必要がある。

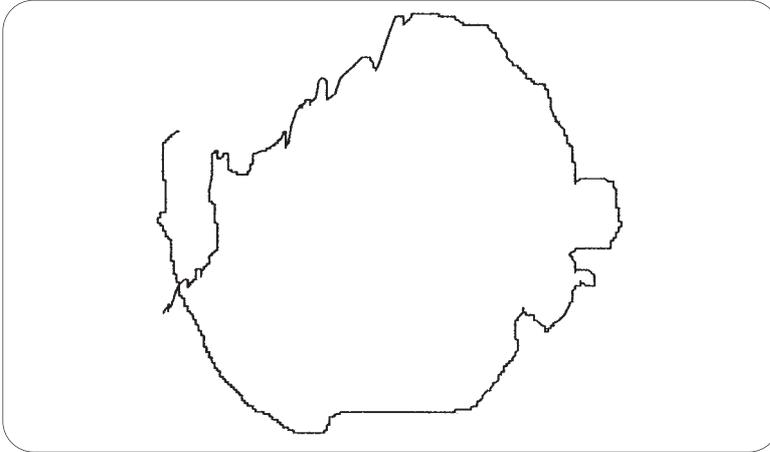
本実践では「体にこんなに悪い影響があるのに、何で薬物があるのだろうか？と疑問に思う。」「体にすごく大きな害を与えるシンナーや覚せい剤、他にもこんなにひどい害のある薬物があるのだろうか？」

など、シンナーや他の有機溶剤についての疑問が出され、課題の広がりが見られた。学習以後の健康的な生活に向けての実践化につながるため、課題追究の時間を保障していきたいと考える。

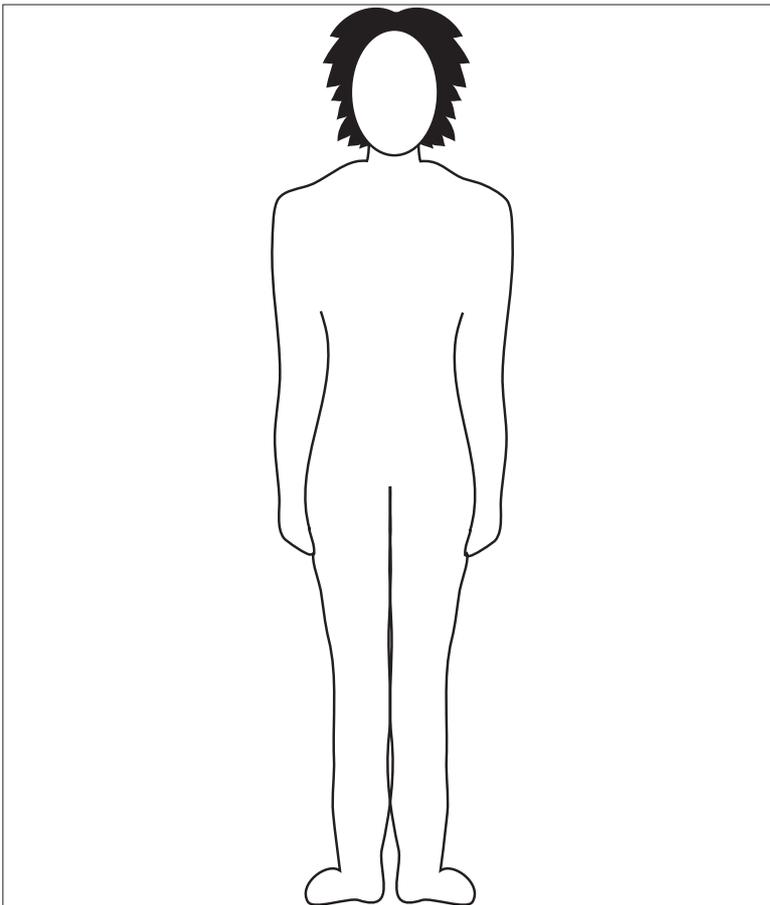


資料3

<シンナー乱用者が描いた円>



<シンナー乱用の害のまとめ用人体図>



<シンナー乱用の害>

脳の細胞を溶かす

体の細胞をとかす

目が見えなくなる

歯がとける

のど・食道が傷つき出血

肝臓の働きが弱まる

手足をしびれさせる

☆子どもの考えを聞きながらこのカードを人体図に貼っていきます。

## 6年 保健 テスト (病気の予防)

1. 次の文章の抜けている部分を下の点線の中から選び、文章を正しく完成させましょう。(知識・理解)

病気は、(病 原 体)・( )・( )  
・(環 境) がかわりあって起こります。

天気 服装 体の抵抗力 生活の仕方 寒さ 暑さ

2. 最近かぜをひきやすいな、と思っている友だちがいます。あなたは次のような場面でどのように考えますか？(思考・判断)

このごろゲームが楽しくて、学校へ行く前も帰ってきてからもずっとやってるんだ。止められないよ。でも、すぐかぜをひいちゃうんだけど。

<Aさん>

<Bさん>



① Aさんにかぜをひく原因を教えてあげましょう。

② Aさんがかぜを予防するためには、どうすればよいでしょう。

3. シンナーを一度くらいなら吸ってもいいだろうと言っているAさんに、「それは、絶対にだめだよ！」と強く否定したBさんがいます。Bさんは、なぜ「絶対にだめだよ！」と言ったのでしょうか。また、Aさんがこのような間違っただけのことを言わないようにするために、あなたはAさんにどのように接しますか。(思考・判断)

①それは、絶対にだめだよ！だって・・・

---

---

---

② Aさんが「一度くらいなら吸ってもいいだろう」と間違っただけのことを言わないようにするためには・・・

---

---

---

## (7) 実践を終えて

### ① 授業者のコメント

本時学習活動1のブレインストーミングでは、およそ円らしくない円（シンナー乱用者の描いた円）を見ながら、どのような人が描いたのだろうかと様々な意見や考えが子どもたちから活発に出された。友だちの意見を聞きながら新たな発想を重ね、「何かがおかしくなっているみたいだ」といった想像が膨らみ、次の活動につながっていった。本学級では、本時に限らず様々な学習においてブレインストーミングを行っているため、失敗や間違いを意識せず、思うがままの自分を表現したり友だちの発言から自らの発想を広げたりすることが自然に行われている。ブレインストーミングは、物事の見方を広げたり、課題を見つけたりするときに有効な方法であると考えられる。初めて行う際には「ブレインストーミングを行う際の留意点」を子どもたちにしっかり説明したり、予め掲示資料を用意したりするなどの配慮が必要である。

単元終了後の子どもたちの振り返りカードには「シンナー乱用や覚せい剤などは、なぜ止められなくなるのだろうか」「どんな人がシンナーを乱用してしまうのだろうか」など薬物乱用に対する疑問点やもっと調べてみたいこと等が記され、課題の広がりが見られた。このようなときには健康・安全への関心・意欲・態度が「十分満足できる状況」にあると評価するとともに、体育科・保健領域の時間に限らず、総合的な学習の時間、その他において課題追究の時間を十分保障していくことが必要であろう。

グループごとのブレインストーミングや全体での話し合いの際に、実に積極的に発言し教師とのコミュニケーションも豊かにとれている子どもがいた。また、教師の問いかけに対する反応もすばやく、常にリアルタイムで自分の考えを表現しようとする子どもである。ところが、学習のまとめの場面での振り返りカードを見ると、白紙の状態である。学習中の場面場面で、自分の思いを全て出し尽くしているため、書く必要も無かったようである。本時では「今まで言ってきたことを、もう一度書いて残しておこうか」と支援し、書くことの意味づけを行った。カードなど記録に残る資料も大切であるが、カードだけで授業後に評価しようとする、このような事例を適正に評価することはできないであろう。子どもの状況に応じた支援と、学習中の発言の様子や、話し合いの観察なども加えた多様な方法での評価の大切さを改めて感じた。

### ② 観察者のコメント

この指導案では3観点による評価がバランスよく取り入れられ、児童の学習状況を多面的にとらえることができている。しかも的確に評価できるように工夫がされています。特に学習カードや振り返りカードでは、「知識・理解」の評価にとどまらず、健康生活の実践化に向けて「思考・判断」が評価できるようになっています。これからの保健学習では、効果的かつ適切に評価を進める上で、ワークシート等の工夫も重要になってくるでしょう。

## (8) 単元の観点別学習状況の評価と評定への総括

観点別評価簿（6年 2学期 病気の予防）

児童	評価の観点		第1～5時			第6時			第7時			第8時			保健 観点別 評価	運 2学期 の 評価	2 学期 観 点 別 評 価	運 1 学 期	運 3 学 期	年 間	体 育 の 評 定
			①	②	③	①	②	③	①	②	③	①	②	③							
1	ア	関	○	○	◎	◎	-	-	◎	-	-	-	-	○	A	A	A	B	A	A	3
	イ	思	◎	◎	◎	-	○	○	-	◎	◎	-	-	◎	A	A	A	B	A	A	
		技	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	B	B	A	B	B	
	ウ	知	-	◎	-	-	-	○	-	-	◎	-	-	◎	A	-	A	-	-	A	
2	ア	関	◎	○	○	○	-	-	○	-	-	-	-	◎	B	B	B	B	B	B	2
	イ	思	○	○	○	-	◎	◎	-	○	○	-	-	○	B	B	B	B	B	B	
		技	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	A	A	A	B	A	
	ウ	知	-	○	-	-	-	○	-	-	○	-	-	○	B	-	B	-	-	B	
3	ア	関	○	○	○	○	-	-	△	-	-	-	-	○	B	A	A	B	A	A	2
	イ	思	△	○	○	-	○	○	-	○	○	-	-	◎	B	B	B	B	B	B	
		技	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	B	B	B	B	B	
	ウ	知	-	○	-	-	-	○	-	-	△	-	-	○	B	-	B	-	-	B	
4	ア	関	○	○	○	○	-	-	○	-	-	-	-	○	B	C	C	B	C	C	1
	イ	思	△	△	○	-	△	○	-	△	○	-	-	△	C	C	C	B	C	C	
		技	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	B	B	B	B	B	
	ウ	知	-	△	-	-	-	○	-	-	△	-	-	○	C	-	C	-	-	C	

※-は該当する評価場面なし

- 学習の内容ごとに、◎「十分満足できる状況」○「おおむね満足できる状況」△「努力を要する状況」の3段階で評価する。
- 保健領域の単元の観点別評価は、  
 A「十分満足できる状況」については、「◎が過半数の場合」とする。ただし、「△がある場合は◎とセットにして、○二つ分とし、それでも◎が過半数となった場合」とする。  
 C「努力を要する状況」については、「△が過半数の場合」とする。ただし、「◎がある場合は△とセットにして、○二つ分とし、それでも△が過半数となった場合」とする。  
 B「おおむね満足できる状況」については、上記「A」「C」以外の場合とする。
- 保健学習を実施した学期の観点別評価については、保健領域と運動領域の評価を合わせて学期の総括をし、「関心・意欲・態度」「思考・判断」「知識・理解」それぞれの観点に保健学習の状況を反映させるようにする。この際、保健学習の評価を「知識・理解」の観点だけに限定したり、3観点を合わせて「知識・理解」の観点のみに反映させたりすることのないように留意する。

- 保健領域を実施した学期は、保健領域（20%）と運動領域（80%）の評価配分とする。（具体的な評価事例については「早見表」参照）
- 各学期の観点別評価A・B・Cを得点化し（A・3点、B・2点、C・1点）評定に結びつける。
- 単元における観点別評価の総括や評定への総括については、この他にも様々な方法があり、各学校において工夫されたい。

<保健領域と運動領域の評価早見表>

保健領域の観点別評価	運動領域の観点別評価	学期の観点別評価
A	A	A
A	B	B
A	C	B又はC
B	A	A
B	B	B
B	C	C
C	A	A又はB
C	B	B
C	C	C

<参考資料>

保健学習の評定及び通信票の学習状況の考え方について

<現場にありがちないくつかの問題点>

- 保健学習が「知識・理解」だけを大切にしているという考えをもっている教師が依然として多い。
- 指導要録の体育科の観点別学習状況の各観点に、保健領域の内容が記されていることが十分理解されていないケースもある。

その結果として・・・ ↓ ↓ ↓

- 保健学習の状況を「知識・理解」観点だけに反映させている。
- 保健学習を「関心・意欲・態度」「思考・判断」「知識・理解」の3観点から見ているが、最終的には3観点をトータルして「知識・理解」にまとめている。

<運動領域との関係について>

（体育年間計画・6年 川崎市立上作延小学校の一例）

- 1学期 12週 34時間 体づくり・器械・陸上・水泳
- 2学期 14週 42時間 体づくり・器械・表現・ボール・陸上・保健
- 3学期 7週 14時間 ボール・器械

◇2学期 保健学習の占める割合

- 領域数から見ると・・・ 1 / 5 (20%)
- 時間数から見ると・・・ 8 / 42 (19%)

◇年間

- 領域数から見ると・・・ 1 / 7 (14%)
- 時間数から見ると・・・ 8 / 90 (9%)

☆各学期においては

	運動領域	保健領域
関心・意欲・態度	80%程度	20%程度
思考・判断	80%程度	20%程度
技能	100%	
知識・理解		100%

と考えている。

本書は、文部科学省補助金による学校保健センター事業として、下記の財団法人日本学校保健会に設置した「保健学習推進委員会」で作成したものである。

## 『保健学習推進委員会名簿（平成14～16年度）』

○印 各部会のチーフ

	委員長	和 唐 正 勝	宇都宮大学教育学部 教授
	副委員長	野 津 有 司	筑波大学体育科学系 助教授
	副委員長	高 橋 浩 之	千葉大学教育学部 教授
(小学校部会)	委員	柏 葉 清 志	東京都大田区立開桜小学校 教諭
	委員	佐 藤 博 志	埼玉県さいたま市立上落合小学校 校長
	委員	下 村 義 夫	岡山大学教育学部 教授
	委員	富 岡 寛	神奈川県川崎市立上作延小学校 教諭
	○委員	野 津 有 司	筑波大学体育科学系 助教授
	委員	森 良 一	栃木県教育委員会保健体育課指導主事 (前宇都宮市立上戸祭小学校 教諭)
	委員	渡 邊 正 樹	東京学芸大学 助教授
(中学校部会)	委員	青 木 孝 子	東京都葛飾区立堀切中学校 教頭
	委員	赤 田 信 一	静岡大学教育学部 助教授
	委員	荻 原 芳 彦	山形県米沢市立米沢第一中学校 教諭
	委員	加 藤 隆 司	東京都江東区立深川第四中学校 主幹
	委員	長 岡 佳 孝	山形県教育庁スポーツ保健課指導主査兼学校保健係長
	○委員	西 岡 伸 紀	兵庫教育大学生活・健康系教育講座 助教授
	委員	横 嶋 剛	宇都宮市教育委員会学校教育課 指導主事 (前宇都宮市立一条中学校 教諭)
(高等学校部会)	委員	植 田 誠 治	茨城大学教育学部 助教授
	委員	戸野塚 厚 子	宮城学院女子大学学芸学部 助教授
	○委員	高 橋 浩 之	千葉大学教育学部 教授
	委員	齋 藤 文 夫	茨城県教育庁保健体育課指導主事
	委員	長 岡 知	千葉県立若松高等学校 教諭
	委員	丹 羽 眞樹子	千葉県私立麗澤高等学校 教諭
	委員	松 中 直 司	埼玉県立上尾東高等学校 教諭

本資料は、主として上記小学校部会が作成に当たり、文部科学省スポーツ・青少年局体育官 戸田芳雄のほか、下記の方々から多大のご援助とご助言をいただきました。

鬼 頭 英 明	文部科学省スポーツ・青少年局学校健康教育課	健康教育調査官
采 女 智津江	文部科学省スポーツ・青少年局学校健康教育課	健康教育調査官
大 竹 輝 臣	文部科学省スポーツ・青少年局学校健康教育課	専門官

---

## 小学校保健学習の指導と評価

— 目標に準拠した評価がわかる具体的な展開例 —

---

初版 平成16年2月26日

発行者

財団法人 日本学校保健会

〒105-0001 東京都港区虎ノ門2-3-17

虎の門2丁目タワー6階

☎03 (3501) 3785・0968

印刷所

大東印刷工業株式会社

---

